

「特別目録」によるご注文受付け

【特別延長】

2022年7月末まで

〈祝〉日本比較文学会
第84回全国大会

〈開催記念〉特別目録

~~2022.6~~

資料に命のちを
作品に心こころを
形にして伝える。



www.ozorasha.co.jp

日本比較文学会 会員の皆様へ

◆ご注文は、

ホームページ〈ご注文フォーム〉



からお願いします。(電話・ファクスも可)

***「日本比較文学会」会員である旨、
お知らせください。**

(期間限定の特典があります。)

- ・ お求め方法その他、詳しくはお問合せください。

目次 (抄)

2-5 ★残部僅少 日本語読本 (プラウト)	14 「翻訳詩」事典 フランス編
6,7 ★残部僅少	ボードレール
ブルウスト研究 / トルストイ研究	15 近代日本語 〈形成と翻訳〉
人間 ほか	16 世界文学総合目録
10 オーディオブック 三国志	17 大正期翻訳文学画像集成
デジタル資料叢書 USB 版	図説 翻訳文学総合事典
北斎漫画 ほか	児童文学翻訳作品総覧
11 NHK わたしの自叙伝	18 明治翻訳文学全集
12 漱石を聴く	19 ナダ出版センター 商品一覧
13 文明開化の歌人たち ほか	



日本語読本 全2巻 (I 翻訳 / II ドイツ語原本複製)

ヘルマン・プラウト 著 翻訳・解説：森岡健二・志村哲也

B5判・上製・総780頁 (I:330頁 / II:450頁) ISBN4-283-00458-8 (大空社 2006年3月刊)

定価 27,500円 (本体 25,000円 + 税 10%)

2022年6月1日 現在

残り数セット

◆至急ご検討ください。
お取り置き、ご予約承ります。ご相談ください。

原書 1891 (明治 24) 刊

19世紀ドイツの日本語・日本文化研究の精華

近代日本語形成期の稀少な〈口語〉日本語資料

(特色) ①刊行 1891 (明治 24) 年、〈口語〉に注目したユニーク・稀少な

日本語語学教材・物語集。

②日本文化の懇切な解説を含む、詳細な注釈。

③一般独和辞典が収録しない古語・方言・俗語を多く収録する「和独語彙集」付き。

④外国人の日本語・日本文化理解の具体例として、比較文学・異文化交流史研究の貴重な資料。

⑤ 19世紀ドイツの言語研究と日本研究の深さを証する貴重資料。

⑥日本語研究のさまざまな面 (ローマ字表記、音声、語彙、文法、口語・文語) に多くの研究材料を与える。

(キーワード) 日本語 (口語・語彙・方言・江戸 / 東京言葉・文法・ローマ字表記・音声)、近代日本文学、落語・講談・語り、比較文学 / 文化、異文化交流、お雇い外国人、ドイツの日本語 / 日本文化研究、海外日本研究、ドイツ語、言語学

【内容】

[I] 翻訳 (ドイツ語原本の概頁数)

(本文) 1) 昔話 (20)

文福茶釜 / 舌切り雀 / 桃太郎の話 / 酒呑童子の話 / 鬼に瘤を取られる / かちかち山

2) 落とし噺の類 (15)

百姓と鳥の噺 / しわんぼう歳暮を贈る / 忘れ薬 / 狡猾な男が花生けを安く買った噺 / 豊後の吉 / 不思議な草の実 / 寄り合い噺 / 頭巾の中の馬糞 / 一休金仏を枕にした噺 / 一休和尚曲がれる松を真っ直ぐに見たる噺 / 一休はしを渡った噺

3) 支那の歴史上の話 (5)

分桃の情 / 司馬温公の甕割 / 孟宗雪中に竹を掘る / 郭巨金の釜を掘る / 覆水盆に返らず

4) 日本の歴史上の話 (135)

藤吉郎小牧山の木を数える / 信長森蘭丸を試す / 紹巴の申し開き / 清正利休を試す / 天一坊 (130)

5) 小説 (115)

蝦夷錦故郷之家土産 (三遊亭門朝)

和独語彙集 (130)

見出語数約 6,500。用例の日本語をすべて翻字、語釈は特記すべきもののみ訳出。

付・参考資料 (R. ランゲ『口語体日本語教本』(1890) 概要およびランゲ著作リスト)

[II] ドイツ語原本複製 (日本国内所蔵僅少)

Japanisches Lesebuch: Märchen und Erzählungen in japanischer Umgangssprache und lateinischer Umschrift nebst Anmerkungen und Wörterbuch. xvi, 428pp., Stuttgart; Berlin: W. Spemann, 1891.

【原著者】 ヘルマン・プラウト Hermann Plaut, 1846-1909

R. ランゲ (下記*) のもとで日本語の研究と教授に従事した。井上哲次郎の留学日記 (1888 年) に、東洋学校で日本語学を履修したとある。本書『日本語読本』(1981) 以外に『日本会話文法』『日本会話文法の鍵』(いずれも 1904) があり数か国語に翻訳されている。

* ルードルフ・ランゲ Rudolf Lange, 1850-1933

1874-81 (明治 7-14) 年、東京医学校でドイツ語・ラテン語等を教えたお雇い外国人で、帰国後大学で日本語・日本文化を教えた。著述多数で、プラウト『日本語読本』が頻りに参照指示をする『口語体日本語教本』Lehrbuch der japanischen Umgangssprache は代表作 (初版 1890、改訂 2 版 1906)、浩瀚・詳細な日本語教本で英語版も広く普及。「古今和歌集」の翻訳もある。

★以下、見本ページ (p.3 ~ 5)



[176]

V. 小説

28. 蝦夷錦古郷の家土産^(*) 176.1
(三遊亭円朝)

第一回

偕(さで、御聞(おきき)に入れ升(ます)お話しは、176.2)先達で大臣方が北海道へ御巡回の節図らずお供を致しました。其折(そのおり)函館(176.3)で聞(きい)て参りましたお土産のお話しで御坐いまして初めの程は北海道の処は更に御坐いませんが、段々末は北海道のお話しに相なります。——其前かたは極く古い処のお話しで御坐いまして安政(176.4)二年十月二日が此のお話し(の)発端で世界には天変地異ということ(は)度々有ますが、其中でも安政の大地震は一通りならん大変で御坐いました。火事は悪いものに違ひ御坐いせんが、又た大きに陽気(177)なもので半鐘がジャン！ジャン！播木(はんぎ)はポン！ポン！鳴る、太鼓をドン！ドン！叩く、拍子木をカチカチ鳴らす、提灯を点(つけ)て皆アリアリヤンリウト(177.1)と、誠に陽気なもので御坐いますが、何(どう)も、地震は陰気なものでズシン！グラグラという、其まて遣い出しますので何(なん)となく陰々と致します。何(ど)んな騒動がありまして、母親は小供を連れて逃げますが、地震の時は、気も転倒(てんどう)致しますから、自分が先へ逃げまして坊や危険(あぶない)から、「サツサと逃げてお出(いで)！」なんのと、手招き(ぎ)をして逃げます。大きに親子の情を失います。実は地震は能(よ)くないもので安政の大地震、これは実に気が転倒いたします訳で私(円朝)どもは存じて居りますが、ソリヤ！地震というと、母親が乳呑児を置(おい)て駆出します。旦那様にお三どんが抱付(かじりつ)く、奥様は飯焚男に背負(おぶさつ)て逃げ出す、十二三の娘子(むすめ)は向う鉢巻をして家根(大家根)を毀して大工を引出す。大病人が看病人を背負(おぶさつ)て這出す、按摩さんがお堀へ駆込むやら、火の見番が火の見から飛下りて家体見世(やたいみせ)の下になり、天麩羅屋が橋から舟へ飛び込みますと、船頭が飛び上(あがッ)て引(ひッ)ぱり女を踏みつぶすやら、瀬戸物屋の御亭主は慌へ駆出すとたんに、看板の大土瓶へ突き当って菓鐘頭(やかんあたま)へ漏(もれ)を拵(もれ)を拵らえ、酒屋の御亭主は駆出すはずみに呑口(のみぐち)を残らずぶッこ抜いて瀧水(たきすい)の泉を流し、汁粉屋は餡鍋で火傷をする。御殿女中は裸体(はだか)で駆出す、角力取は夜着を着て這出す。そうか！と思うと、お大名の

176.1) 《蝦夷錦という故郷への土産》。蝦夷は北日本の大きな島で、現在ではクリル諸島を含め北海道と呼ばれる。「錦」という表現はよく本の題に用いられる。この物語の初出は1888年〔明治21〕である。この翻訳はいくつかの卑猥で写實的過ぎる箇所を削除し、あまたの誤植を訂正した点を除けば原典と一致する。作者は今なお存命〔1839～1900年〕の有名な「癖家」出淵(**)次郎吉であり、三遊亭円朝の名で書いている。

176.2) 《私が語「ろうとする」話とはいえば、私は…しました》。ここに言及される大臣とは山県〔有朋〕卿と

井上〔馨〕卿で、円朝は1886年〔明治19〕に蝦夷へと随行した。

176.3) 北海道の一都市で条約港。

176.4) 安政年間(1854～1859年)の大地震で江戸には104,000人の死者が出た。

177.1) 交雑する音を表す擬音語。

(*) (えぞにしきこきょうのいづづ)

(**) 原文 Debuchi とあるが正しくは「いづづち」。

2022年6月1日 現在

残り数セット

◆至急ご検討ください。
お取り置き、ご予約承ります。
ご相談ください。

[I] 翻訳

[II] ドイツ語原本複製

V. Shōsetsu.

28. Ezo-nishiki kokyō no iezuto.¹⁾

(Enchō Sanyūtei.)

Dai ikkai.

sate, o kiki ni iremas' o hanashi wa,²⁾ sendatte daijingata ga Hokkaidō ye go junkai no sets' hakarazu o tomo wo itashimash'ta. sono ori Hakodate³⁾ de kiite mairimash'ta o miyage no o hanashi de gozaimash'te hajime no hodo wa Hokkaidō no tokoro wa sara ni gozaimasen' ga, dan dan sue wa Hokkaidō no o hanashi ni ainarimas'. — sono maekata wa goku furui tokoro no o hanashi de gozaimash'te Ansei⁴⁾ ni nen jū gats' futs'ka ga kono o hanashi no hottan de sekai ni wa tempen chii to iu koto wa tabi tabi arimas' ga, sono naka de mo Ansei no ōjishin wa hito tōri naran' taihen de gozaimash'ta. kaji wa warui mono ni chigai gozaimasen' ga, mata ōki ni yōki

¹⁾ «Ezo-Brokat, ein Reisegeschenk für die Heimath.» Ezo, die nördliche grosse japanische Insel, jetzt mit den Kurilen zusammen Hokkaidō genannt. — Der Ausdruck *nishiki* findet sich öfter als Buchtitel. — Vorliegende Erzählung erschien zuerst 1888. Die Umschrift stimmt bis auf die Auslassung einiger allzu derbrealistischer Stellen und die Verbesserung zahlreicher Druckfehler mit der Urschrift überein. Ihr Verfasser ist der noch lebende, berühmte *hanashika* (Erzähler) Debuchi Jirōkichi, der unter dem angenehmen Namen Enchō Sanyūtei schreibt.

²⁾ was die Geschichte betrifft, die ich Ihnen erzählen will, so habe ich u. s. w. — Die hier erwähnten Minister sind die Herren Yamagata und Inoue, in deren Gefolge Enchō 1886 nach Ezo reiste.

³⁾ Stadt auf Hokkaidō, Vertragshafen.

⁴⁾ die Periode Ansei dauerte von 1854—1859. — Bei dem grossen Erdbeben kamen in Edo 104.000 Menschen um.

「プラウトは、日本には口語体で書かれた読物が極めて少ないと断って、こういう中で第一の位置を占めるのは噺家・三遊亭円朝の短編群であると言って、「蝦夷錦故郷之家土産」を採録している。この他の話は、一部は日本の友人たちに語ってもらったままに書き留めたものであり、一部は文語体から再話ないし翻訳したものであると、話題の出所を語っている。つまり、『日本語読本』は当時日本に少なかった口語体で書かれている物語集である。(…) この本は、面白い話が集まっているので、一般には日本の物語として読まれたかと思われるが、内容は明らかに語学書である。」

——解説(森岡健二)より



学術資料出版
大空社出版
TEL:03-5963-4451
cigy@ozorasha.co.jp

* 判型 B5 判(182 × 256 ㍉)

27. Tenichibō.¹⁾

Dai ikkai.²⁾

Tokugawa³⁾ hachi dai no shōgun Yoshimune kō to mōshimash'ta o kata wa, Ieyasu kō no shison de⁴⁾ Kii no kuni Wakayama no jōshu jūnii dainagon⁵⁾ Mitsusada kō no san nan de arimash'ta.

¹⁾ Die volkstümliche Geschichte Tenichibō's ist in vorliegender Gestalt eine Bearbeitung der gleichnamigen Erzählung enthalten in dem Werke Ōoka Meiyo Seidan, einer umfangreichen Sammlung von Rechtsfällen, in denen der kluge Stadthauptmann von Edo, Ōoka (s. weiter unten) als Richter eine Rolle spielt.

²⁾ Wb. kai.

³⁾ Minamoto Tokugawa Ieyasu, geb. 1542, aus dem berühmten Geschlecht Minamoto (auch Genji oder Genke, vgl. S. 9 Anm. 8), das schon von 1192—1204 und abermals von 1336—1573 die erbliche Würde eines Shōgun (Reichsverwesers) inne gehabt hatte, wurde nach dem Tode Hideyoshi's (s. S. 40 Anm. 1) und nach Besiegung der Anhänger Hideyori's, des jungen Sohnes Hideyoshi's, bei Sekigahara am Nakasendō, 16. October 1600, vom Kaiser zum Shōgun ernannt, welche Würde bis zum Jahre 1868 in seiner Familie forterbte. Den Namen Tokugawa führte die Familie nach einem früheren Besitz in Shimotsuke. Ieyasu ist auch der Gründer der Stadt Edo (jetzt Tōkyō) an der Stelle eines Stranddorfes gleichen Namens. Nach seinem Tode 1616 wurde er unter dem Namen Tōshō Daigō (徳川 家康) Jinkun, volkstümlich Gongen sama) d. h. «Licht des Osternation Buddha's» deificiert. — Auf Ieyasu folgte sein 3. Sohn sein 4. Sohne gab er die Provinz Owari (Bishū), dem 7. (Kishū) und dem 8. Mito (in Hitachi oder Jōshū). Owari hiessen Go san ke, «die drei erhabenen Familien». Aus Ieyasu's Bestimmung, im Falle der regierende Shōgun Ieyasu hatte, dessen Nachfolger gewählt werden. Die Linie Hidetada 7. Shōgun, Ietsugu, aus (1716) und es folgte Yoshimune, und Urenkel Ieyasu's, aus dem Hause Kii, das die Shōgun inne hatte, worauf ein Shōgun aus dem Hause Mito folgte bis 1868 regierte, in welchem Jahre das Shōgunat abgeschafft wurde. Haus Owari ist nicht zur Nachfolge gekommen. — Yoshimune ein grosses Verdienst durch Einsetzung einer Kommission des geltenden Rechts, die bis 1840 bestand.

⁴⁾ de = de arimash'te; war ein Abkömmling von — von u. s. w. — Wakayama, Hauptstadt von Kii.

⁵⁾ Die Fürsten von Kii führten als solche den Titel daimyō erst vom 66. Lebensjahre an; jūnii ist der persönliche Rang.

2022年6月1日 現在

残り数セット

◆至急ご検討ください。
お取り置き、ご予約承ります。
ご相談ください。

[I] 翻訳

[II] ドイツ語原本複製

47

[47]

27. 天一坊^{47.1)}

第一回^{47.2)}

徳川^{47.3)} 八代の将軍吉宗公と申しましたお方は、家康公の子孫で^{47.4)} 紀伊の国和歌山の城主従二位大納言^{47.5)} 光貞公の三男でありました。[48] 幼名 (ようみよ) ^{48.1)} を徳太郎君 (ぎみ) と申し上げました。母君は九条^{48.2)} 先の関白 (かんぱく) 太政大臣の第四 (し) の姫君でありました。一体徳川時代には諸侯の奥方は必ず江戸におらなければならない筈でありました^{48.3)} けれども、光貞公が紀州和歌山で大病に罹 (か) られまして、^{48.4)} その奥方が直 (ちか) に看病なされたいということ度々將軍家へ願ひ出されましたゆえ、例外に奥方も国元へ差し遣わされました。さて、奥方が在国中^{48.5)} ある夜の夢に^{48.6)} 日輪と月輪 (ひつるん) とを両方の手に握ると^{48.6)} 見られまして御懐妊になりました。奥方は、余り不思議な夢ですから、光貞公にお話になりました。^{48.7)} すると、公は喜ばれまして、「もしもこの子が男ならば、世に名を挙げるほどの偉い者になるにちがいない」^{48.8)} と仰せられました。その後貞享^{48.9)} 元年正月二十日 (はつか) 卯の刻^{48.10)} 玉のような御男子 (おんし) が誕生になりました。

47.1) このような大衆的な天一坊物語は、聡明な江戸の町奉行、大岡 (下記参照) が裁判官として活躍する浩瀚な歴史事件集『大岡名譽政談』という作品に含まれる、同名の話の再話である。

47.2) [kai (VI)]

47.3) 源 (みなもと) 徳川家康。1542年生まれ。高名な氏族である源 (源氏 [げんじ] または源家 [げんけ] とも [9.8]) の出。同氏はすでに1192～1204年、そして1336～1573年再び将軍 (摂政) の世襲位を占めている。秀吉の死後 ([40.1]) そして中山道沿いの関ヶ原で秀吉の若い息子、秀頼の支持派を打ち破ってから、1600年10月16日天皇から将軍に任命され、その位は1868年まで同家に継承された。同家は下野の旧所領から徳川の名を取った。家康は同名の漁村から江戸 (現東京) を興した都市創設者でもある。没後の1616年後は東照大権現 (東照仁君、俗に権現様とも) すなわち「東の光、偉大な仏陀の化身」の名で神格化された。家康の跡を継いだのは三男の秀忠である。四男には尾張地方 (尾州) を、七男には紀伊地方 (紀州) を、八男には (常陸または常州) の水戸が与えられた。尾張、紀伊、水戸は御三家「三つの崇高な家」であった。家康の命により在位中の将軍に跡継ぎがない場合、その三家から後継者が選ばれることになっていた。秀忠の家系は七代将軍家継で絶え (1716年)、光貞の子で家康の曾孫、紀州家の吉宗が跡を襲い、同家は1867年まで将軍職を占めた。その後を継いだのは水戸家の将軍慶喜で、1868年まで統治したが、同年幕府は廃止された。尾張家が後を継ぐことはなかった。吉宗には1840年までに成立した現行法の編纂委員を任命したことで大きな業績がある。

47.4) 「で」 = 「でありまして」。《…出身者で…の三男だった云々》。和歌山は紀伊の首都。

47.5) 紀伊藩主は同時に「大納言」の位を帯びていた (元来は66歳になってから。従二位は光貞個人の位階)。

48.1) 子供は生後七日で名を与えられ (「幼名」)、それは15歳か18歳まで持ち続けるが、それからすぐに前頭部を剃り落とす儀式 (「元服」) および後頭部の髪を房に結うこと (「髷」) で、幼名は成人名に替えられる。その後も重要な折々にはしばしば名前を変えることがあった。

48.2) 九条は最高級の公家 (宮廷貴族) の名。

48.3) 全ての大名は一年の一時は江戸に、残りはその所領に交互に住むことが徳川政権下の掟であった。しかし家族は忠誠の証の人質として常に江戸に住まねばならなかった。

48.4) 敬語表現の可能形 [L. 229]。

48.5) 《(大名の) 所領に滞在する間》。江戸に滞在することは「江戸詰め」といった。

48.6) 「…ということをも」夢「に」見た。

48.7) 「になる」を伴う語幹形については [L. 244, 2節]。

48.8) 彼が一名を成すという程度にまで立派な男になることは疑いない。

48.9) 貞享時代は1684～1687年。

48.10) 《(免の) 時間に》。一日は中国の算法では2時間ごとに12等分された (「刻」)。この12の刻には中国の黄道十二宮の名がつけられていた。「子」=鼠 (午後11時～午前1時)、「丑」=牛 (午前1～3時)、「寅」

『日本語読本』は、日本の歴史、風俗、習慣すなわち武士、町人、百姓などの言語を階層に応じて描き分けていてその点でも貴重だが、この本の価値を一層高からしめているのは、ページごとに施された脚注である。この注釈は日本の言語・文化を学ぶ学生のためのもので、実に念の入った多様な注釈で、本書にとって欠くことのできない重要な位置にある。固有名詞の注もあるが、最も力を入れているのは文法で、助詞、動詞の活用だけでなく、微妙なことば遣いやニュアンスを微に入り細を穿って詳しく説明している。注目したいことは、同じ語句や類似の表現について、「見よ (s.)」「参照せよ (vgl.)」という指示が非常に多いことである。特に、ルードルフ・ランゲ『口語体日本語教本』(1890)を「参考にせよ (L.)」という指示が多く、いかに語彙の指導に力を入れていたかが分かる。」

— 解説 (森岡健二) より

2022年6月1日 現在

残り数セット

学術資料出版
大空社出版
TEL:03-5963-4451
cigy@ozorasha.co.jp

Japanisch-Deutsches Wörterbuch
(和独語彙集)

*判型 B5 判(182 × 256 ミリ)

◆至急ご検討ください。
お取り置き、ご予約承ります。
ご相談ください。

surā — tabijitaku.

399

surā s. suru.
suriko Kinderbrei.
surijōru heranrutschen.
suru reiben; han de sutte aru mono
etwas Gedrucktes.
suru (vulg. Imper. shii 253 Anm. 6; neg.
Imper. o shi de nai yō; sh'cha, sh'chā
= sh'te wa; sh'ta'te = sh'ta to iu
217 Anm. 8; seba = sureba 57 Anm. 1;
surā = suru, na 194 Anm. 1; seru
126 Anm. 4; seshi 124 Anm. 5; seshi
ni tsuki = sh'ta yue 126 Anm. 5);
thun, machen; ni —, to — machen
zu, werden zu; ni, to sh'te (wa) als
für (28 Anm. 1); ni sh'te (Schriftspr.)
= ni natta toki (68 Anm. 6); ni sh'te
oku sein lassen, stehen lassen; machen
zu; watashi ni sh'te (mite) mo wenn
ich an seiner Stelle wäre; koto ni —
(mit vorhergehendem Verb) es so
machen, dass; sich entscheiden für;
(tatoe) . . . ni mo seyo, shiro wenn
auch, obgleich . . . , doch; kō sh'te so,
auf diese Weise; sō — to, sō sh'tara,
sō sh'te (mireba), sō sh'te orimas' uchi,
sō sureba s. sō II; to —, to sh'te (mit
vorhergehendem Fut.) = to omou,
to omotte im Begriff (sein) zu (19
Anm. 9); — darō nach einer Doppel-
frage (87 Anm. 2); — to hierauf.
surudoī scharf; von scharfem Verstand,
klug.
Suruga (30 Anm. 4).

surasamajū (Adv. susamajiku) schrecklich,
schauerlich.
susō Rand, Saum, Rockschoß.
susosabaki die schickliche Anordnung
der Kleidersäume.
susomoyō, — no mit gemustertem Saum.
susuhaki Ausfegen, Reinigen; — wo suru
ausfegen, rein machen.
susumeru 1 vorwärts bewegen; dar-
bieten; zureden, rathen.
susumideru 1 vorwärtsgehen, vortreten,
näher herankommen.
susumu vorwärtsgehen, vorrücken, sich
näher.
susu schlürfen.
suwa (Ausruf = sa, sorry) da!
Suwa, Suwako (213 Anm. 3); Suwa-
myōjin (112 Anm. 2).
suwaraserareru 1. zum Sitzen eingela-
den werden.
suwaraseru 1. zum Sitzen einladen; ein-
setzen.
suwarikomu sich hineinsetzen.
suwaru (mit untergeschlagenen Füßen)
sitzen, hocken; hinzugefügt sein, da-
runter stehen (von einer Unterschrift).
suzukake eine Art mit Troddeln be-
setzter Schärpe, von yamabushi um
den Hals getragen und vorn herunter-
hängend.
suzume Sperling.
suzumeodori Sperlingstanz.

すゝま(に) ぬく(に) 30, 8, 10,
-50, 63, 67, 70-1, 74-5, 82-3, 85-6,
106, 109-10, 112-13, 115-16, 122,
158, 160-1, 163-6, 167, 170, 173-4,
3
] 優れた 39
25, 60, 62, 98, 102, 106, 116, 133,
173; 直ぐさま 80
に 19
] 176.3]
女す
す
女す 135, 167
80] || 吟味の筋がある 147 || 129;
138
] 確って 41
124-5
] してみる 130
すかさず直ぐに 18
] 数寄屋橋御門 [131.7]
4, 285
と 281
] しておく 95, 106
] 住ませておく 58
] われる [同 <sumau || 58
] わせる [同 = sumawash'te 住ま
] 流したように真っ暗 87
219
sumu [進む] 9, 33
sumu [済む] 64, 71, 77, 79, 100, 116, 128, 142, 202;
少しの怪我で済む; 済むものではない; 済まない・済
みません(のです) 24, 49, 184, 202, 204, 205, 215,
236, 251, 253; 済まない心持ちがする 107; に(は)
済まない 203-4; 重々済みません 283; 済まねえ
199; 済まん事 287; それじゃ済まない 199
sun [寸] 二三寸 97
sunawachi [即ち] 22, 33, 40, 42, 51, 59, 74, 85, 91, 99-100,
106, 111, 116, 118, 128-9, 134, 148, 152, 157, 160, 169,
290
sune [脛] 242
suneate [脛当て] 241
sunekizu [脛傷] 脛疵 185
sūnen [數年] 59, 156, 164; 數年の間 76; 數年来 81
suppari [スッパリ] 226
surā [すら] ですら 150; すらすらと 241
sura [すらあ] [suru] || 194
suriko [搦り粉] 64
suriyōru [すり寄る] 277
suru [刷る] 版で刷つてあるもの 223
suru [する] 同 同 = しい [253.6]; 同 同 = おしてない
よ; しちゃ、しちゃあ=しては; したって=したと言う
[217.8]; せば=すれば [57.1]; すらあ(=する)な
[194.1]; せる [126.4]; せし [124.5]; せしに付き=し
たゆえ [126.5]; にする、とする; に・として(は) [28.1];
にして [同] = になったとき [68.6]; にしておく; わたし
にして(みて)も; (同+)ことにして; (たとえ) . . . にもせ
よ・しる; こうして; そうすると、そうしたら、そうして
(みれば)、そうしておりますうち、そうすれば [sō (II)];
(同+)とする、として=と思う、と思って [19.9]; する
だらう [87.2]; すると 4
surudoī [鋭い] 242
Suruga [駿河] [30.4]
susamajū [凄まじい] [同] = 凄まじく || 106, 179

T.

ta, — no ein anderer, andere, die an-
dern; kono, sono — no ein anderer;
sono — ausserdem, ausser diesen.
tā (vulg.) = to wa.
taba Bündel; hito — ein Bündel.
tabakarareru 1. betrogen werden.
tabakobon Rauchservice.
tabane Bündel; — wo suru, itas' zu-
sammenbinden; hito, mono no — wo
suru Leute unter sich, unter seinem
Befehl haben.
tabehajimeru 1. anfangen zu essen.
tabekko, — no kake Esswette.

taberu 1. essen; tabete miru kosten.
tabesaseru 1. zu essen geben.
tabi mal; — oftmais; kono — diesmal,
in dieser Zeit; futu — zum zweiten
Mal, wiederum; — (nach dem Verb)
jedesmal, wenn; so oft als
tabi Reise; — no reisend
— wo suru reisen.
tabibito Reisender.
tabidachi Abreise.
tabidats', wo — abreisen vor
tabijitaku Reisevorbereitung.

[II] ドイツ語原本複製

「さらに、この『日本語読本』で注目す
べきことは、巻末の「和独語彙集」で
ある。この用語集は、『日本語読本』に
収録された物語の全語彙に読み・意味・
用例を説明した一種の和独辞典で、一
般の独和辞典に登録されていない江戸
言葉・方言・俗語が大量に集められて
いて、貴重である。」

——解説 (森岡健二) より

[I] 翻訳

suerareru — taema

249

suso [裾] 106, 180, 231
susosabaki [裾捌き] 219, 233, 252
susomoyō [裾模様] 裾模様の 273, 275
susuhaki [裾掃き] 裾掃きをする 71
susumeru (I) 【進める・勤める・奨める】 [進] 103, 119,
127, 130 || 【勤】 100, 109, 252 || 【奨】 37-8, 64, 70
susumideru (I) 【進み出る】 111, 126, 147, 159
susumu 【進む】 119, 153; 進ませる 124, 133
suu [吸う]
suwa [すわ] = さ、そりゃ
Suwa [諏訪] 諏訪湖 [213.5]; 諏訪明神 [112.2]
suwaraserareru (I) 【坐らせられる】
suwaraseru [坐らせる]
suwarikomu [坐り込む] 177
suwaru [坐る]
suzukake [蓑懸] 10
suzume [雀] 3-5
suzumeodori [雀踊り] 4

tabun [多分] 75, 85, 107, 144, 154, 231 || 多分の 62;
多分の持ち合わせ 234
tabusa [髷] 276
tabyō [多病] 多病である 149
tachi [太刀] 41
tachi [質・性質] 66, 188, 226
tachiagaru 【立ち上がる】 88, 98, 106, 110
tachiiai 【立ち会い】 立ち会ひの上 175
tachiiau 【立ち会う】 130
tachideru (I) 【発ち出る】を発ち出る 118, 131, 138, 161,
173
tachifurumai 【立ち振るまい】
tachifurumawareru (I) 【立ち振る舞われる】 [同 < tachi-
furumau || 51
tachigiki 【立ち開き】 立ち開き(を)する; を立ち開きす
る
tachihataraku 【立ち備く】 80
tachiitaru 【立ち至る】 大事に立ち至るところでありました
110
tachikaerareru (I) 【立ち帰られる】 [同 < tachikaeru
tachikaeru (2) 【立ち帰る・立ち返る】 5, 53, 62
tachimachi 【忽ち】 忽ち(に) 179
tachimodoru 【立ち戻る】 26
tachinokeru (I) 【立ち退ける】
tachinoki 【立ち退き】 159
tachinoku 【立ち退く】 62, 159; を立ち退く 82-3, 91
tachiōseru 【立ちおおせる】 腹を立ち終せる 281
tachiotoshi 【裁ち落とし】 218
tachisaru 【立ち去る】 (を)立ち去る 75, 83, 90, 102, 110,
164
tachiiori 【立ち寄り】 77
tachiioru 【立ち寄る】 77, 97, 118, 122
tada 【唯・只】 (唯) 9, 16, 28, 38-9, 44, 52, 87, 97, 102,
108, 116, 119, 127, 130, 132, 142, 169, 175, 230; (只)
28 || 只の 72, 112
tadachi 【直ち】 直ちに 137
tadaima 【只今】 24-5, 65, 73, 86, 116, 127, 130, 138-9,
146, 152-3, 157, 168, 174, 207, 233, 254, 262-3, 273,

T.

ta 【他】 他の 31, 145; この・その他の 13, 105, 118,
126, 128, 133, 159, 172, 175; その他 59, 65, 121, 139,
144, 149, 170, 174-5, 189
tā 【たあ】 [同] = to wa とは 196
taba 【東】 一東 17
tabakarareru (I) 【戻られる】 175
tabakobon [煙草盆・烟草盆] 186, 199, 208, 275
tabane [東ね] 東ねをする・致す; 人・物の東ねをする
207-8, 210
tabehajimeru (I) 【食べ始める】 29
tabekko 【食べっこ】 食べっこの賭け 29
taberu (I) 【食べる】 6, 23-4, 35, 37, 69, 72, 88, 228-9,
232, 258, 266, 284; 食べてみる 35; 食べられる 268
tabesaseru (I) 【食べさせる】 23, 267
tabi 【度・毎】 度々 48, 91, 149, 158, 176, 188, 196, 234,
257; この度 50, 53, 60, 62-3, 65, 84, 115, 119, 122,
125, 128, 133, 135, 143, 156, 159, 165-6; ふた度;
数多たび 37; 幾たびか 22 || [同] 毎 250



日本の近現代文学史上に残る
 文学研究「雑誌」の名品4点

時代の雰囲気を感じさせる
 〈原装にならった複製〉

いずれも
残り数セット

2022年6月1日現在

※最後の入手チャンス
 かもしれません。至急
 ご検討をお願いします!



人間

全71冊・別巻1

小田切進監修／高橋英夫解説

[大空社 1992. 9-1993. 3]

A5判 (別巻上製)

定価 220,000 円 (本体 200,000 円)

■戦後日本文学の出発点となった記念碑的文芸雑誌(鎌倉文庫刊、昭和21.1-26.8。編集長・木村徳三)の複製。石川淳「処女懐胎」、高見順「わが胸の底のここには」、織田作之助「世相」、井伏鱒二「侘助」、堀田善衛「広場の孤独」、佐多稲子「私の東京地図」、上林暁「聖ヨハネ病院にて」、島木健作「赤蛙」、また河上徹太郎、中村光夫、桑原武夫、平野謙、中島健蔵、加藤周一、荒正人、花田清輝、吉田秀和、岸田國士、林達夫、等々400人以上の豪華執筆者は枚挙にいとまがない。三島由紀夫は本誌から文壇デビュー。

別巻：鎌倉文庫と文芸雑誌「人間」(内容)戦後の記念碑的雑誌「人間」(小田切進：遺稿)／「人間」解説(高橋英夫)／アンソロジー：鎌倉文庫と「人間」(川端康成、高見順、巖谷大四、永井龍男、三島由紀夫、遠藤周作ほか)／『人間』時代(木村徳三)／総目次／挿画家名索引・著者名索引／鎌倉文庫出版リスト、鎌倉文庫参考文献

- 1 回配本 39 冊 (1 巻 1 号 -3 巻 12 号) 4-87236-251-9
- 2 回配本 32 冊 (4 巻 1 号 -6 巻 8 号)・別巻 4-87236-252-7



トルストイ研究

全29冊・別冊1

柳富子解説 [大空社 1985] 菊判 4-87236-013-3

定価 60,500 円 (本体 55,000 円)

■トルストイ会編・新潮社刊、1916・大正5年9月～1919・大正8年1月刊(総約2360頁)の複製(函入)。内田魯庵、中村白葉、昇曙夢、大泉黒石、八杉貞利、米川正夫、岩野泡鳴、島村抱月、豊島与志雄、本間久雄、広津和郎、小山内薫、片山伸、木村毅、近松秋江、山村暮鳥、室生犀星、阿部次郎、相馬御風、徳富蘇峰、等々、当代の文芸・思想・宗教等の分野の第一線執筆陣による、論文・随想・翻訳を掲載。別冊は解説・全執筆索引・総目次。



いずれも
残り数セット

※最後の入手チャンス
 かもしれません。至急
 ご検討をお願いします!

2022年6月1日現在



新文学研究

全 22 冊・別冊 1

曾根博義監修 [大空社 1994. 6]

菊 / 四六判 4-87236-912-2

定価 160,194 円 (本体 145,631 円)

■伊藤整編輯、金星堂刊『新文学研究』全 6 輯 (昭和 6. 1 ~ 昭和 7. 5)、
 『列冊新文学研究』全 16 冊 (昭和 7. 9 ~ 8. 6) の複製 (フランス装)。
 ジョイス、プルースト、ロレンス、ウルフ、ハックスリー、パウンド…20 世紀文学の最前線を受容 (研究・翻訳・紹介) した昭和モダ
 ニズムの華。別冊は解題・総目次・索引。



プルースト研究

全 4 冊・付録 1

[大空社 1985. 2]

4-87236-007-9

定価 16,500 円 (本体 15,000 円)

■フランス装アンカット版 (完全複製) (195 × 185 ミリ、
 函入)。1934・昭和 9 年 7 月・9 月・10 月・12 月 (作品社刊)
 に、『作品』同年 9 月所収の「誌上出版記念会」を付録。伊
 吹武彦、生島遼一、井上究一郎、市原豊太、淀野隆三、河
 盛好蔵、山内義雄、渡辺一夫、青柳瑞穂、杉捷夫、等々錚々
 たる執筆・訳者陣。

学術資料出版
大空社出版
 TEL:03-5963-4451
 eigyo@ozorasha.co.jp



〈商品の状態について〉 ここにご案内の書目は〈大空社〉発行です。

刊行年が古い商品については、本文翻訳に支障はないものの、経年による劣化（小口のしみ、表紙クロス焼け等）が見られるものがあります。最善の状態での出荷を心がけますが、新品と言いかねる場合もありますので、ご注文の際にはご承知おきのほどお願いいたします。

◆在庫「僅少」商品は、品切れ後のご入手はほぼ不可能と思われま。この機会にご検討お願いいたします。

*表示価格は(10%税込)定価(本体)

プルウスト研究 全4冊・付録1 [大空社1985.2] 4-87236-007-9 定価16,500円(本体15,000円) **残部数セット**

■フランス装アンカット版(完全複製)(195×185ミリ、函入)。1934・昭和9年7月・9月・10月・12月(作品社刊)に、『作品』同年9月所収の「誌上出版記念会」を付録。伊吹武彦、生島遼一、井上究一郎、市原豊太、淀野隆三、河盛好蔵、山内義雄、渡辺一夫、青柳瑞穂、杉捷夫、等々錚々たる執筆・訳者陣。

トルストイ研究 全29冊・別冊1 柳富子解説 [大空社1985] 菊判 4-87236-013-3 定価60,500円(本体55,000円) **残部数セット**

■トルストイ会編・新潮社刊、1916・大正5年9月～1919・大正8年1月刊(総約2360頁)の複製(函入)。内田魯庵、中村白葉、昇曙夢、大泉黒石、八杉貞利、米川正夫、岩野泡鳴、島村抱月、豊島与志雄、本間久雄、広津和郎、小山内薫、片山伸、木村毅、近松秋江、山村暮鳥、室生犀星、阿部次郎、相馬御風、徳富蘇峰、等々、当代の文芸・思想・宗教等の分野の第一線執筆陣による、論文・随想・翻訳を掲載。別冊は解説・全執筆索引・総目次。

新文学研究 全22冊・別冊1 曾根博義監修 [大空社1994.6] 菊/四六判 4-87236-912-2 定価160,194円(本体145,631円) **残部数セット**

■伊藤整編輯、金星堂刊『新文学研究』全6輯(昭和6.1～昭和7.5)、『別冊新文学研究』全16冊(昭和7.9～8.6)の複製(フランス装)。ジョイス、プルウスト、ロレンス、ウルフ、ハックスリー、パウンド…20世紀文学の最前線を受容(研究・翻訳・紹介)した昭和モダニズムの華。別冊は解題・総目次・索引。

人間 全71冊・別巻1 小田切進監修/高橋英夫解説 [大空社1992.9-1993.3] A5判・並製(別巻上製) 定価220,000円(本体200,000円)

■戦後日本文学の出発点となった記念碑的文芸雑誌(鎌倉文庫刊、昭和21.1-26.8。編集長・木村徳三)の複製。石川淳「処女懐胎」、高見順「わが胸の底のここには」、織田作之助「世相」、井伏鱒二「佗助」、堀田善衛「広場の孤独」、佐多稲子「私の東京地図」、上林暁「聖ヨハネ病院にて」、島木健作「赤蛙」、また河上徹太郎、中村光夫、桑原武夫、平野謙、中島健蔵、加藤周一、荒正人、花田清輝、吉田秀和、岸田國士、林達夫、等々400人以上の豪華執筆陣は枚挙にいとまがない。三島由紀夫は本誌から文壇デビュー。

別巻：鎌倉文庫と文芸雑誌「人間」(内容)戦後の記念碑的雑誌「人間」(小田切進：遺稿) / 「人間」解説(高橋英夫) / アンソロジー：鎌倉文庫と「人間」(川端康成、高見順、巖谷大四、永井龍男、三島由紀夫、遠藤周作ほか) / 『人間』時代(木村徳三) / 総目次 / 挿画家名索引・著者名索引 / 鎌倉文庫出版リスト、鎌倉文庫参考文献

- 1 回配本 39冊 (1巻1号-3巻12号) 4-87236-251-9
- 2 回配本 32冊 (4巻1号-6巻8号)・別巻 4-87236-252-7

近代文学作品論叢書 [大空社1995-98] B5判・上製 **残部数セット**

■過去の作品研究を一望のもとに総覧する、研究に至便・必携のツール。

- 中野重治『村の家』作品論集成(佐藤健一編) 3巻70点 [1998.12] 4-87236-828-2 定価49,500円(本体45,000円)
- 田山花袋『蒲団』作品論集成(加藤秀爾編) 3巻93点 [1998.7] 4-87236-825-8 定価49,500円(本体45,000円)
- 長塚節『土』作品論集成(梶木剛・河合透編) 4巻104点 [1998.7] 4-87236-826-6 定価66,000円(本体60,000円)
- 島崎藤村『夜明け前』作品論集成(剣持武彦編) 4巻186点 [1997.11] 4-87236-824-X 定価66,000円(本体60,000円)
- 西脇順三郎『Ambarvalia(アムバルヴァリア)』作品論集成(澤正宏編) 2巻57点 [1997.6] 4-87236-822-3 定価33,000円(本体30,000円)
- 川端康成『雪国』作品論集成(岩田光子編) 3巻90点 [1996.11] 4-87236-820-7 定価48,058円(本体43,689円)
- 森鷗外『洪江抽斎』作品論集成(長谷川泉編) 83点1巻 [1996.11] 4-87236-819-3 定価18,156円(本体16,505円)
- 夏目漱石『夢十夜』作品論集成(坂本育雄編) 3巻110点 [1996.6] 4-87236-817-7 定価48,058円(本体43,689円)
- 永井荷風『溼東綺譚』作品論集成(高橋俊夫編) 4巻105点 [1995.3] 4-87236-814-2 定価61,942円(本体56,311円)
- 釈超空『死者の書』作品論集成(石内徹編) 3巻99点 [1995.3] 4-87236-815-0 定価41,650円(本体37,864円)

定本 小川未明童話全集 全16巻・別巻1 [大空社2001-02] A5判・上製・平均400頁 定価132,000円(本体120,000円)

■『全集』(講談社、昭和51-53)を底本に各種流布本を比較検討し現代表記にした。小川未明の作品698点を収録した決定版全集。丸善版全集(昭和2)から価値の高い美しい挿絵を多数収載。別巻には研究論考、対談、座談会、月報、エッセイ、オマージュなどを収録。

- 1 回 10巻 [2001.6] 4-283-00190-2
 - 1. 赤いろうそくと人魚他42編
 - 2. 小さな草と太陽他46編
 - 3. 鈴チョコの天使他38編
 - 4. ある夜の星たちの話他43編
 - 5. 二度と通らない旅人他45編
 - 6. 雪くる前の高原の話他41編
 - 7. すいせんと太陽他44編
 - 8. 青空の下の原っぱ他41編
 - 9. 雪原の少年他33編
 - 10. 少年と秋の日他55編
- 2 回 6巻・別巻1 [2002.3] 4-283-00191-0
 - 11. 子ざると母ざると他35編
 - 12. 春風の吹く町他40編
 - 13. 生きぬく力他42編
 - 14. 緑色の時計他34編
 - 15. しらない町の子他62編
 - 16. こがらしのふくばん他41編

別巻「未明童話の世界」(対談/エッセイ/研究論考/月報など) 4-283-00192-9 定価8,800円(本体8,000円)

ダンテ神曲 全3巻 山川丙三郎訳 [大空社1993] 四六判・上製・天金・貼函入 4-87236-856-8 定価37,379円(本体33,981円)

■岩波文庫版がもとにした記念碑的訳業(警醒社書店、大正3-11)を完全複製。「大江健三郎(推薦文より) 山川訳『神曲』の文体=(…)様ざまな翻訳のお世話になった(…)僕がとくに魅きつけられたのが、岩波文庫版山川丙三郎訳『神曲』である。文体のおだやかな威厳。生真面目でいて、この訳者には謹直なユーモアとでもいうものがあつたはずと感じさせる言葉の選び方(…)」

日本の娯楽・遊戯大事典 全2巻 村上浪六監修・中山由五郎著 [大空社2014.12] A5判・上製・総1400頁 978-4-283-01310-0 定価52,800円(本体48,000円)

約2,900項目 民衆不変の「遊び」が凝縮! ①近代(明治・大正)までの日本の民衆の娯楽・遊びを網羅的に、日常の遊びから芸能・芸道まで広範囲な内容。②遊び方・方法・道具から心得・楽しみ方まで懇切丁寧に説明。昔の遊びも再現して楽しめる。③身体を使うことから頭を使うことまで(ことば遊び・謎など)、ひとりでも複数人でもできる遊びのアイデアの宝庫。④娯楽・遊戯をテーマに日本人の趣味・生活感・美意識・人間関係・道徳観等が浮き彫りにされる厚みある民俗文化の百科事典。⑤現代読者の便を考慮し、現代表記五十音順「全項目索引」と「解題」(木下秀明著)を新たに付した。復刻原本=『民衆娯楽百科全書』太陽社出版部・立国同志学会、1922・大正11年刊

〈商品の状態について〉 ここにご案内の書目は〈大空社〉発行です。

刊行年が古い商品については、本文翻訳に支障はないものの、経年による劣化（小口のしみ、表紙クロス焼け等）が見られるものがあります。最善の状態での出荷を心がけますが、新品と言いかねる場合もありますので、ご注文の際にはご承知おきのほどお願いいたします。

◆在庫「僅少」商品は、品切れ後のご入手はほぼ不可能と
思われます。この機会にご検討をお願いいたします。

*表示価格は(10%税込)定価(本体)

◆ご注文フォーム

学術資料出版
大空社出版
TEL:03-5963-4451
eigy@ozorasha.co.jp



日本語読本 全2巻 ヘルマン・プラウト著／森岡健二・志村哲也訳・解説

[大空社 2006.3] B5判 750頁 4-283-00458-8 定価 27,500円 (本体 25,000円)

残部数セット

■1891年(明治24)ドイツで編集・刊行された日本の物語集の、原文ローマ字表記を日本語に翻刻し、ドイツ語の注・日本語語彙集を翻訳。当時の日本語口語資料として、また日本の歴史・風俗・社会についての詳細な注は比較文化の貴重な資料となる。昔話、長編物語(天一坊)、円朝の小説「蝦夷錦古郷の家土産」と内容多彩。

未完のハーン伝 テューニソン関係書簡を中心に 梅本順子著 [大空社 2002.12] A5判 150頁 4-283-00214-3

残部僅少

定価 2,860円 (本体 2,600円)

■ラフカディオ・ハーンの伝記を書こうと集めていたハーンの手紙が、伝記未完成のまま埋もれていた。どの伝記にも収録されなかった書簡を原文と翻訳で甦らせる。

闘う牧師 田村直臣の挑戦 梅本順子著 [大空社 2010.2] A5判 148頁 978-4-283-00776-5 定価 3,520円 (本体 3,200円)

■たむら・なおみ(1858-1934)は「宗教をはずしても、もっと語るべき人物」。キリスト教、ジャーナリズム、米国留学・異文化接触、**残部僅少**、児童文学、足尾鉍毒事件…既存の価値観に挑戦し凄まじく奮闘し続けた一生。

日本語になった西洋語 急増するカタカナ語 高野繁男著 [大空社 2011.5] 四六判 978-4-283-00781-9

定価 2,750円 (本体 2,500円)

■外来語が急増する日本語。このままカタカナ語が増えつづけると日本語の将来はどうか。

国民学校 国語読本 全12冊 [大空社 2001.10] A5判 4-7568-0998-7 定価 20,744円 (本体 18,858円)

■「ヨミカタ」「よみかた」「初等科国語」〈昭和16-18〉。戦時下教育を証言。カラー完全複製。
ヨミカタ一・二(1年前・後期用・昭和16〜)／よみかた三・四(2年前・後期用・昭和16〜)／初等科国語一・二(3年前・後期用・昭和17〜)／初等科国語三・四(4年前・後期用・昭和17〜)／初等科国語五・六(5年前・後期用・昭和18〜)／初等科国語七・八(6年前・後期用・昭和18〜)

南洋群島 国語読本 全8巻 宮脇弘幸監修・解説 [大空社 2006.10] A5判 4-283-00463-4 定価 108,900円 (本体 99,000円)

残部数セット

■戦前・戦中期植民地教育研究に残されていた大きな一角、幻の教科書の全貌。約30年の統治期間中、現地人児童生徒用に編纂・使用された教科書(第一次〜四次、大正6-昭和12)。芦田恵之助・岩崎俊春・梅津隼人らが編纂。

1. 第一次 南洋群島国語読本 巻一・二 1年用(杉田次平、大正6) 2. 第二次 南洋群島国語読本 巻一〜三本科用 本科1〜3年用(芦田恵之助、大正14) 3. 第二次 南洋群島国語読本 巻一・二補習科用 補習科1・2年用(芦田恵之助、昭和2) 4. 第三次 南洋群島国語読本 巻一〜六本科用 本科1〜3年用(岩崎俊春、昭和7) 5. 第三次 南洋群島国語読本 巻一・二・四補習科用 補習科1・2年用(岩崎俊春、昭和8) 6. 第四次 公学校本科国語読本 巻一〜六 本科1〜3年用(梅津隼人、昭和12) 7. 第四次 公学校補習科国語読本 巻一〜四 補習科1・2年用(梅津隼人、昭和12) 8. 南洋群島国語読本教授書(芦田恵之助、大正15)

南洋群島 国語読本 補遺 宮脇弘幸監修・前田均解説 [大空社 2012.2] A5判 978-4-283-00794-9 定価 15,400円 (本体 14,000円)

■新たに教授書を発見。補遺として刊行。「第四次 公学校国語読本教授書」(梅津隼人、昭和12、南洋庁)。

傑作 国策標語大全 前坂俊之解説 [大空社 2001.6] A5判 700頁 4-283-00164-3 20,000円+税

残部数冊

■標語総4250。大正10年から昭和20年頃までに内閣情報局が掲げた国策標語を徹底収集し、8分野89項目に分類(国民精神作興、国力振興、生活刷新など)。社会・風俗・教育・言語など必携。

戦時下標語集 大空社編 [大空社 2000.5] B5判 550頁 4-283-00163-5 定価 22,000円 (本体 20,000円)

残部数冊

■昭和11年から終戦まで、政府の国策標語のみならず、国威宣揚に企業・団体が唱えたもの、紙誌・放送などメディアに載ったもの、街頭の標語など約430を年代順に収録。

近代外国 地名人名 呼び方書き方 変遷史料集 全4巻 [大空社 2007.11] B5判 978-4-283-00529-7

定価 71,500円 (本体 65,000円)

■日本語にとって永遠の課題(外国の固有名をいかに呼び、どう書き表すか)の歴史基本文献。すべての日本語による外国地名・人名事典と並べて表記を確認するために必携。

1. 文部省調査 外国地名字彙(教授法研究会、明治36) 2. 文部省調査 外国人名字彙(教授法研究会、明治36) 3.4. 史料集1・2〔外国地名及人名取調(官報5811号附録)(明治35)／外国地名及人名訂正(官報5837号)(明治35)／外国地名及人名増補及訂正(官報6147号附録)(明治36)／外国地名人名表 第1回調査(日本放送協会、昭和12)／満蒙支那人地名表 第1回調査(松田儀一郎、昭和12)／外国地名及人名取調一覧(明治35)／外国地名人名呼一覧(史学会、大正3)／地名の呼び方と書き方 社会科手びき書(文部省、昭和34)〕

明治期讃美歌・聖歌集成 全42巻 手代木俊一監修／厨川勇・E. ヘンゼラー・手代木俊一解説 [大空社 1996-98]

残部1セット

定価 512,194円 (本体 465,631円)

■正教会系・カトリック系・プロテスタント系に分け編年順収録。近代の言語(国語・外国語・音声)、教育、比較文化、近代史、宗教研究必携。

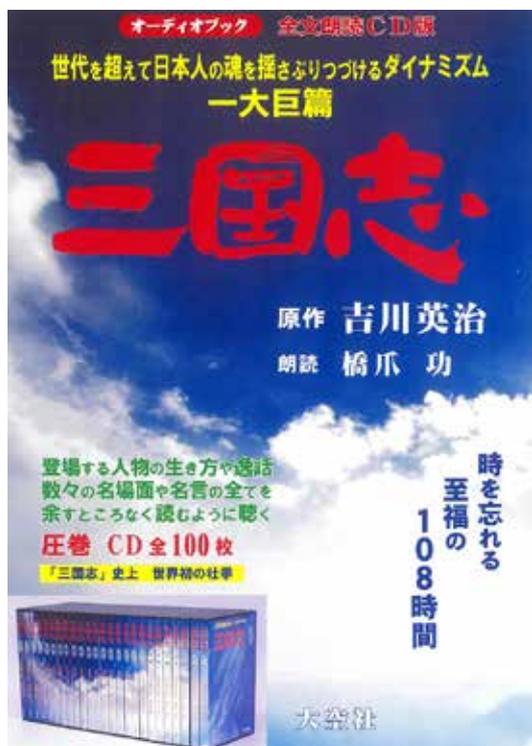
- 1期 11巻(1-11巻) [1996.5] 4-7568-0232-X
- 2期 15巻(12-26巻) [1996.12] 4-7568-0233-8
- 3期 6巻(27-32巻) [1997.10] 4-7568-0234-6
- 4期 10巻(第33〜42巻) [1998.6] 4-7568-0520-5

折口信夫研究資料集成 全11巻・別巻1 朝倉治彦監修／石内徹編集 [大空社 1994.10] B5判 4-87236-928-9

残部数セット

定価 160,194円 (本体 145,631円)

■大正7年5月〜昭和40年12月までの折口(稔空)研究の成果(人物論、作家論、歌論、小説論、古代文学、折口学、国文学、民俗学、神道、宗教関係論文ほか)を集大成。収録文献は総900点。



オーディオブック 三国志

〈CD〉全100枚

吉川英治 原作 橋爪功 朗読 〈全108時間〉

付ガイドブック [大空社 2009] 978-4-283-00624-9
定価 259,809 円 (本体 236,190 円)

■〈朗読の名手〉橋爪功のすばらしい語りで聴く、『三国志』全文朗読、史上初の壮挙。偉大な国民的作家による不朽の名作、その豊饒な語りの世界に踊る無慮数千の個性——名優が、人の呼吸をそのままに「いのち」を吹き込んだ、朗々たる108時間に陶酔！

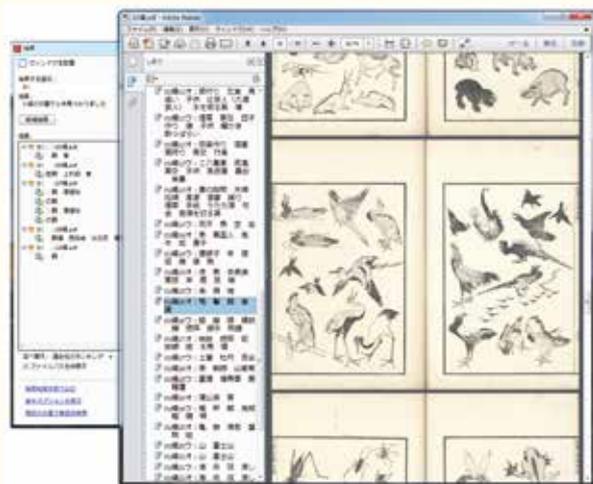
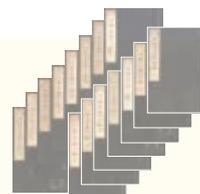
■NHKラジオ（平成5年9月～8年7月放送）「吉川英治名作選」を完全収録。混沌の時代を生き抜き、充実して生きる知恵に充ちた名作が、万人にとって、日々の糧として、素養として、楽しみとして、余暇にと、生涯の宝となった。

〈大空社デジタル資料叢書 [USB版]〉

基本・貴重・研究必須資料を 至便・簡便機能の〈画像+検索用詳細テキスト〉でデジタル化
個人で持てない膨大文献が たった1本の〈USB図書館〉として実現！

「見る」から「引く」へ 〈使える〉北斎漫画の誕生！
不滅の人気を博す世界の傑作をすみずみまで堪能！
鑑賞と研究に耐える本格的デジタル化資料

北斎漫画 全15編



葛飾北斎・画（1760～1849）。文化11年（1814）から明治11年（1878）にかけ刊行（14・15編は没後刊）。教習用絵手本と百科図彙をかねた画集。造形力・ダイナミックさ・奇抜さ等で当代後代の門人・画師から遠く海外絵画へ多大な影響を与えたことは有名。

●意外、驚き！ 目次（内容目録）が
無くて、見たい絵が探しにくかった！

待望、初！ 画題〈総索引化〉

版本をカラーで画像化、さらに本文約
3500（4000とも言われる）の収録絵図全
てに内容を示す名称を付け初の索引化。



葛飾北斎画・大空社編 [大空社 2015.5] 4-283-01246-2
定価 38,500 円 (本体 35,000 円)

古今要覧稿 Ver.1.0 1本 屋代弘賢編 [2015.5] 4-283-01247-9 定価 44,000 円 (本体 40,000 円)

■質と量で圧倒！近世の〈類書〉で最大の業績。日本の事物・故実考証に必携の大叢書。底本＝「国書刊行会叢書」版全6冊（明治38）。

群書類従 Ver.2.0 1本 塙保己一編纂 [2015.3] 4-283-01243-1 定価 55,000 円 (本体 50,000 円)

■国書・古典究極の叢書。25部分類・全530巻666冊。続群書類従完成会版・全30巻（大空社刊CD-ROM版をPDF化）。

明六雑誌・明六雑誌語彙総索引 Ver.2.0 1本 大空社・高野繁男・日向敏彦編 [2015.2]
4-283-01245-5 定価 46,200 円 (本体 42,000 円)

■日本近代化史上不滅の一級史料。日本語研究のみならず、全ての研究領域に必携のツール。



本人の肉声で聞く！ 耳から伝わる、感動的な、さまざまな味わいのある人生！
 あの「戦争」をくぐりぬけてきた人ばかり ... 知らない世代へ語り伝える人生談の宝庫！

NHK わたしの自叙伝 〈CD〉 全 39 枚 (全 78 人)

付・解説書 1 [発行：NHKサービス出版センター 2012 刊]

(1 枚に 2 名収録) 各 3,850 円 (本体 3,500 円)

政治家・実業家・事業家・社会運動家・教育者・学者・研究者・ジャーナリスト・作家・芸術家・デザイナー・演劇人・映画人・俳優・スポーツ人—全 78 人。現代日本のさまざまな分野で活躍し名を残す“あの人”たちが、じっくりと自らを語る貴重な音声記録。

■この CD は NHK 教育テレビで放送「わたしの自叙伝」(1978-81 年) の音声のみを収録したものです。分野に分けて 1 枚に 2 名を収録しています。

↓ * CD No. でご注文ください。

- 12 [文芸 1] 丹羽文雄 (作家 1904-2005) 母への愛憎 / 井上光晴 (作家 1926-92) 海底炭坑の青春
- 13 [文芸 2] 尾崎一雄 (作家 1899-1983) 病と貧乏と芳兵衛と / 黒岩重吾 (作家 1924-2003) わが闘病時代
- 14 [文芸 3] 大原富枝 (作家 1912-2000) ふり返る青春 / 田宮虎彦 (作家 1911-88) 父子のきずな
- 31 [文芸 4] 中村真一郎 (作家・小説家 1918-97) 母と女のあいだに / 山本茂實 (作家 1917-98) 野麦峠への道
- 32 [文芸 5] 石垣りん (詩人 1920-2004) わたしの前に詩集が三つ / 松田解子 (作家 1905-2004) はるかなる銅山
-
- 15 [文化・芸術 1] 新藤兼人 (映画監督 1912-2012) 一家離散の記憶 / 今井正 (映画監督 1912-91) レッドパーズの頃
- 16 [文化・芸術 2] 今日出海 (評論・演出家 1903-84) ルソン島脱出記 / 依田義賢 (脚本家・映画 1909-91) 映画スタジオの青春
- 17 [文化・芸術 3] 渡辺暁雄 (音楽家・指揮者 1919-90) 母を語る / 高木東六 (音楽家・作曲家 1904-2006) パリ留学時代
- 33 [文化・芸術 4] 高光一也 (画家 1907-86) 仏の道と絵の道と / 八木一夫 (陶芸家 1918-79) オブジェ焼誕生のころ
- 34 [文化・芸術 5] 寿岳文章 (英文学者・書誌学 1900-92) 紙すき村 行脚のころ / 大江巳之助 (文楽人形師 1907-97) 人形に魂をこめて
- 35 [文化・芸術 6] 手塚治虫 (漫画家 1928-89) こども漫画 33 年 / 田河水泡 (漫画家 1899-1989) のらくろ誕生前後
- 36 [文化・芸術 7] 横山泰三 (漫画家 1917-2007) プーさんの誕生 / 濱谷浩 (写真家 1915-99) 雪国からの出発
-
- 5 [学問・研究 1] 今西錦司 (人類学者・登山家 1902-92) 山と探検 / 川喜田二郎 (人類学・地理学者・登山家 1920-2009) ネパール山岳民族のなかで
- 6 [学問・研究 2] 有賀喜左衛門 (農村社会学者 1897-1979) 民族の心をもとめて / 宮本常一 (民俗学者 1907-81) 民俗学との出会い
- 7 [学問・研究 3] 井上光貞 (日本史・古代学者 1917-83) 戦時下に古代を読む / 江上波夫 (東洋史・考古学者 1906-2002) 黄塵万丈モンゴルをゆく
- 8 [学問・研究 4] 直良信夫 (考古学者・古生物 1902-85) 明石原人発見 / 末永雅雄 (考古学者・古墳 1897-1991) 古墳遍歴
- 9 [学問・研究 5] 本田正次 (植物学者 1897-1984) 草木を友に / 木原均 (遺伝学・生物学者 1893-1986) 小麦をえらんだ道
- 26 [学問・研究 6] 丹下健三 (建築家 1913-2005) 建築・道・ひろば・都市 / 福山敏男 (建築史家 1905-95) 「古代建築史」修行五十年
- 27 [学問・研究 7] 島秀雄 (鉄道技術者 1901-98) D 51 誕生の頃 / 茅誠司 (物理学者 1898-1988) 南極観測のころ
- 28 [学問・研究 8] 早石修 (医学者・細胞生物学 1920-2015) 占領下の米国留学 / 河村郁 (看護学 1902-90) 結核根絶をめざして
- 29 [学問・研究 9] 平澤興 (医学者・脳神経解剖学 1900-89) 京の田舎人 / 湯浅八郎 (教育者・昆虫学 1890-1981) 両大戦下でのアメリカ体験
-
- 10 [教育・宗教 1] 林竹二 (教育学者・教育家 1906-85) 子供とともに育つ / 大村はま (教育者 1906-2005) 教えつづけた 50 年
- 11 [教育・宗教 2] 城戸幡太郎 (教育学者・教育家 1893-1985) 教育改革の旗の下に / 松前重義 (教育者 1901-91) 青年道場「望星学塾」の日々
- 30 [教育・宗教 3] 葉上照澄 (天台宗僧侶・大阿闍梨 1903-89) 敗戦と千日回峰行 / 小笠原英法 (女優・尼僧 1914-2002) 舞台を捨てて仏門へ
-
- 18 [芸能・スポーツ他 1] 博多淡海 (喜劇役者・座長 1930-81) 仁輪加仕立ての旅烏 / 北條秀司 (劇作家・著述家 1902-96) 名優たちとの幾年月
- 19 [芸能・スポーツ他 2] 森繁久彌 (俳優 1913-2009) 放浪の青春 / 芦田伸介 (俳優 1917-99) 大陸彷徨記
- 20 [芸能・スポーツ他 3] 長谷川一夫 (俳優 1908-84) ベルばら演出のころ / 田中千代 (服飾家・教育者 1906-99) わが留学記
- 37 [芸能・スポーツ他 4] 橋本宇太郎 (囲碁棋士 1907-94) 空襲下の対局 / 笑福亭松鶴 (落語家 1918-86) おおけにおやっさん
- 38 [芸能・スポーツ他 5] 平川唯一 (アナウンサー・ラジオ英会話講師 1902-93) カムカム英語の青春 / 辻嘉一 (料理人 1907-88) しゅんに生きて
- 39 [芸能・スポーツ他 6] 川上哲治 (プロ野球選手・監督・解説者 1920-2013) 球道開眼 / 島岡吉郎 (大学野球監督 1911-89) 熱球 30 年
-
- 2 [社会・実業 1] むのたけじ (新聞記者・ジャーナリスト 1915-2016) たいまつ新聞創刊まで / 森恭三 (新聞記者・ジャーナリスト 1907-84) ニューヨークで聞いた開戦
- 3 [社会・実業 2] 扇谷正造 (評論家 1913-92) 地方的文化人の半生 / 小林勇 (岩波書店会長・文人画家 1903-81) 出版人の 50 年
- 4 [社会・実業 3] 石垣綾子 (評論家 1903-96) 大恐慌のアメリカに生きて / 丸岡秀子 (評論家 1903-90) 胸の中に墓標がいっぱい
- 22 [社会・実業 4] 永野重雄 (実業家 1900-84) 母の愛情に負けた腕白少年 / 水上達三 (実業家 1903-89) 貿易・戦中戦後
- 23 [社会・実業 5] 瀬川美能留 (実業家 1906-91) 父の死 / 吉野俊彦 (経済評論家 1915-2005) 森鷗外を友として
- 24 [社会・実業 6] 高柳健次郎 (技術者 1899-1990) テレビ事始め / 井深大 (技術者・実業家 1908-97) トランジスターラジオ誕生のころ
- 25 [社会・実業 7] 黒沢西蔵 (実業家 1885-1982) 田中正造との出会い / 山内みな (社会運動家 1900-90) 東京モスリン会社争議のころ
-
- 1 [政治 1] 蜷川虎三 (政治家 1897-1981) 負ける時は死ぬ時 / 藤山愛一郎 (政治家 1897-1985) 闘病・外遊の青春
- 21 [政治 2] 福本和夫 (評論家 1894-1983) 獄窓十余年 / 太田薫 (労働運動家 1912-98) 三池闘争のころ

漱石を聴く コミュニケーションの視点から

学術資料出版
大空社出版
TEL:03-5963-4451
cigy@ozorasha.co.jp

小川栄一 著
武蔵大学教授

*2019年3月刊

ISBN978-4-908926-61-7 菊判(151×224^{mm})・232頁 並製・カバー装
3,600円+税

◆ご注文フォーム



ユニークな新視点の提示で
漱石の文学観と作品創造の“真意”を明らかにし、
とりわけ会話・ことばの襞、心理の表裏に
鋭く切り込み、耳を澄ます…。

著者から読者へ

近代におけるコミュニケーション研究の資料として漱石の小説作品に大きな可能性を見出した。漱石作品は日本語の談話資料として着目に値する。その小説にはさまざまなタイプの会話が展開されているが、実に生き生きとしたことば遣いが感じ取れる。それを当時の音調にふさわしく朗読してみれば、当時の澁刺とした日本人の声が響いてくる。漱石は山の手ことばと下町ことばに精通していた。作品中にしばしば現れる下町ことばからは江戸っ子の心意気までも伝わってくるかのようである。

目次 (抄)

第1章 漱石作品研究の意義

コミュニケーション史的研究の構想 漱石作品会話研究の方法 漱石の生い立ちと言語環境

第2章 漱石と近代日本語

漱石の「東京訛り」「江戸語」を意味する「江戸っ子」
漱石が「東京訛り」にこだわる理由

第3章 漱石の文学理論と会話の表現

「F+f」理論 「文芸上の真」と「科学上の真」 通常のコミュニケーションと「F+f」理論 fの発生とコミュニケーション 会話における「協調の原理」 漱石の会話観 会話の心理分析へ

第4章 漱石作品に現れるコミュニケーションの類型

不完全なコミュニケーション(不完全の原因が話し手/聞き手にある) 沈黙 洒落本『傾城買四十八手』における沈黙の会話 表現技法としての不完全なコミュニケーション

第5章 伝聞によるコミュニケーション

漱石作品に現れる伝聞表現 「能才」「うわさの公式」

第6章 翻弄のコミュニケーション

「翻弄の発言」(定義・分析・表現技巧) 漱石の創見

第7章 解釈のコミュニケーション

解釈と「F+f」理論・Fの推移 解釈と翻弄

第8章 「うそ」のコミュニケーション

「うそ」の談話的特質 漱石作品に現れる「うそ」の多用
「うそ」と「役割」「うそ」へのこだわり

第9章 漱石作品における演説の談話分析

近代における演説と漱石作品の演説 漱石の演説の文末表現 漱石の文学理論に基づく演説の試み 詭弁と含意の演説 聴衆に強い衝撃を与える演説 漱石の文学観を述べた演説

終章 漱石作品のコミュニケーション類型と文学理論

主要参考文献・資料一覧(言語・日本語に関するもの/漱石・文学等に関するもの/『漱石全集』の構成その他
索引(漱石作品用例番号索引/用例語彙索引/本文語彙索引)

7.2 漱石作品に現れる「解釈」

119

要するに「解釈」すなわち受信者が受け取ったメッセージの伝達内容を復元する過程において、どのような復元をするか(=どのように解釈するか)、そのしかたに応じて受信者の認識(F)も大きく異なる。したがって、「解釈」とはFの推移を起こす一つの要因である。受信者が異なればFが異なるのは当然として、同一の受信者(聞き手)であっても「解釈」のしかたが一定せず、時々刻々変化する場合には、Fも推移し、これに伴うfが発生する。漱石作品において、登場人物がさまざまな解釈を行う結果、Fも揺れ動くことが往々にしてある。これが人間の懊悩を表現する手段となっている。以下、漱石作品に現れる「解釈」について考察を進めよう。

7.2 漱石作品に現れる「解釈」

漱石作品には、「解釈」によって、言語または非言語によるメッセージの意味を明らかにしようとする例が多く見られている。

あなたの仰やる通りだと、下宿屋の婆さんの云ふ事は信ずるが、教頭の云ふ事は信じないと云ふ様に聞えるが、さう云ふ意味に解釈して差支えないでせうか」 (坊っちゃん・八 2-350-15 赤シャツの言)

「降らなければ、私一寸出て来やうかしら」と窓の所で立つた儘云ふ。三四郎は帰つてくれといふ意味に解釈した。(三四郎・八の六 5-493-7)

女は瞳を定めて、三四郎を見た。三四郎は其瞳の中に言葉よりも深き訴を認めた。——必竟あなたの為にした事ぢやありませんかと、二重瞼の奥で訴へてゐる。(三四郎・八の十 5-506-5)

医者は白いだぶだぶした上着の前に両手を組み合はせた儘、一寸首を傾けた。其様子が「御気の毒ですが事実だから仕方ありません。医者は自分の職業に対して嘘言を吐く訳に行かないんですから」といふ意味に受取れた。(明暗・一 11-3-8)

以上はその一例であるが、「解釈」の多用は漱石作品の一つの特徴を表すも

本文見本
(縮小)

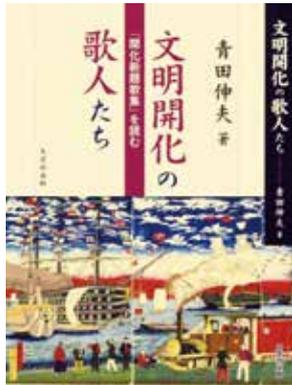


文明開化の歌人たち 『開化新題歌集』を読む

青田伸夫 著

四六判・228頁・並製・カバー 978-4-908926-19-8 [大空社出版 2017.12刊] 1,600円+税

『開化新題歌集』(1-3編)は明治10年代出版の出て歌集(大久保忠保編)。そこからは明治初期、激変期日本人の驚き、衝撃、哀歎、興味、感動が、情感豊かに伝わってくる。押し寄せる西洋の新奇事物、歴史の波濤に揺られながら、歌人たちは何を感じ歌ったのか。現代を生き、詠む歌人が、彼らの生涯と時代を丹念に追い、作品と時代の心を味読する。「日本歌人クラブ評論賞」受賞(第16回・平成30年度)



続 臥 酔

高野繁男 著

B6判・194頁・並製 978-4-908926-35-8

[大空社出版 2017.11刊] 1,600円+税

日本語研究に従事してきた学者が、歴史・自然・ことばについて、旅を日常の体験を、取材し、追憶し、思うこと、言わずにいられないことを、ときに批評し書きとめる。戦後70年、中国、モンゴル、北海道、善光寺、野鳥、日本語の宇宙観…。写真全点カラー。(『臥酔』2013年、大空社刊の続編)

詩集 内場幻想

宮武孝吉 著

A5判・107頁・並製・カバー 978-4-908926-62-4 [大空社出版 2019.7刊] 1,200円+税

香川〈内場〉(現・高松市塩江町上西乙。昭和27年、内場ダムの完成で内場ほか数集落がダムの底に沈んだ)の生んだ孤高の詩人、半世紀を超える作品から編んだ80歳にしてなす処女詩集30余編。詩集に寄せて(菰淵和士)。

井上靖『獵銃』の世界 詩と物語の融合絵巻

藤澤全 著 四六判・169頁・並製・カバー 978-4-908926-04-4 [大空社出版 2017.4刊] 1,600円+税

多くの外国語に翻訳され映画・演劇化される短篇『獵銃』。不惑四十を過ぎて新聞社デスクから文壇へと鮮烈なデビュー(1949・昭和24年「文学界」)を遂げた井上靖(1907～91)。その記念碑的作品の機構＝作立てに込められた詩と物語の香気に満ちた芸術的源泉を精緻に紐解きながら、作品＝ロマンの主題と魅力をあぶり出す。伝記・研究の第一人者が文芸作品を堪能する醍醐味へと誘う渾身の名作ガイド〈生誕110年(2017)記念出版〉

井上靖 グローバルな認識 藤澤全編 [大空社 2005] 四六判 190頁 4-283-00136-8 1,800円+税

■作家・作品・伝記、比較文化(中国・欧米)と国際交流からの19編。

言語文化の諸相 近代文学 藤澤全著 [大空社 2004] A5判 200頁 4-283-00143-0 2,200円+税

■作者・作品・表現の交錯が織りなす文学世界。

残部僅少

いにしへのうしのあゆみに引かへてひまゆく駒の小車ぞ疾き
 昔は牛車だったが、牛のあゆみに引き替え、馬の小車の走りの早いことよ。 八木 暲

息の緒を車にかけて引かせゆく駒のやつれのあはれなるかな
 息の緒を車にかけて引かせゆく駒のやつれの哀れなることよ。 近藤 広徳

人力車
 明治二年頃、東京の八百屋鈴木徳次郎・和泉要助らの共同制作にかかると、その後次第に普及した。初めは車上に固定した四本の柱を立て、それに布を張り、屋根をかけるという簡単なものであったが、逐次、改良され美化されて幌の開閉も自由になった。最盛期は明治三十年前後で二万台を数えたという。顯官や富豪は自家用の人力車を持ち、お仕着せの法被を着せた車夫に曳かせた。まるで今日の自家用車でもあった。

このごろは高き賤しきおしなべて乗らぬ人なき路の小車
 この頃は身分の高下を問わずみな乗らぬ人がない路の小車、人力車よ。 松平 忠敏

人の乗る車を人の引くみればあはれこの世をうしのなりはひ
 人の乗る車を人が引いている姿を見ると実にあわれで、この世にはうし(憂しに牛を) 屋代 柳漁

『開化新題歌集』を読む 一編

「翻訳詩」事典 フランス編

榊原貴教 編著

B5判・上製・560頁・カバー 978-4-908926-49-5 定価 30,800円 (本体 28,000円)

[発行：大空社出版・ナダ出版センター(共同出版) 2018.7刊]

学術資料出版
大空社出版
TEL:03-5963-4451
eigy@ozorasha.co.jp

ご注文フォーム



新組

■ 明治以降の「翻訳詩」の深奥で馥郁たる文学世界を膨大な原典引用(作品・詩論と翻訳者・原作者)で見せる真にユニークな“初の”「翻訳詩」事典

■ 膨大な言説の集積=必読・不朽の資料で読む・見る翻訳詩と翻訳史。近代日仏文芸交流史の粋を結集



[構成]

I 日本とフランス 編 (約250頁)

日本近代の翻訳者と重要翻訳作品および文芸・文化・社会思潮関連の事項を〈原典資料の引用〉を主に構成する。500余点の著作・論文からの引用。項目約160(小見出し約340)は、翻訳と翻訳詩関連の研究テーマ・キーワードの宝庫。

II フランス詩人 編 (約250頁)

原作詩人(主に19世紀以降30人弱)の明治以降の代表的紹介・論評を〈原典資料の引用〉で構成。また、代表作の翻訳を並列し比較・味読のための他にない資料とする。詩人別「翻訳総合年表」を付す。

参考文献(執筆者別引用文献リスト)
索引(人名・件名・書名)



● 詳細カタログ



ボードレール 明治・大正期翻訳作品集

川戸道昭・榊原貴教 編集

B5判・上製・430頁・カバー 978-4-283-01327-8 定価 22,000円 (本体 20,000円)

[発行：大空社 / ナダ出版センター(共同出版) 2016.6刊]

■ 世界的遺産・詩人ボードレールの作品が日本人の精神史におよぼした軌跡を原典で見せる(復刻集成)。

● 明治・大正期のボードレールの詩の翻訳量は、他のフランス詩人の翻訳に比べても比類ない。大正末年に至るまでに、すでに100点を越える翻訳が新聞雑誌に掲載された。そして、その影響は文学史家の想定を超えるものがあつた。ボードレール研究を単に「学問」的な狭量な研究にとどめず、日本人の精神史の一環としてとらえるならば、再検討の時期にきていると言える。

上田敏によって幕開けされたボードレールの日本語の翻訳は、蒲原有明、三木露風、永井荷風、内藤濯、仲田勝之助、三富朽葉、山村暮鳥、川路柳虹、大手拓次、堀口大学、谷崎潤一郎、相馬御風という、研究者ではなく、日本近代詩史の担い手たちによって行なわれてきた。ボードレールの詩は、単に日本の読者に届けられてだけでなく、詩人自らの詩作に刺戟を与え続けていた。日本の近代詩はその影響下で生成してきた。その軌跡を明らかにすることが、文学史と文化史の役割であり、また世界的遺産であるボードレールの作品に、現代日本人はいかなる評価と対処をなすべきか、当然フランスのボードレール研究者とは異なる見解が生れてきてもよいであろう。(刊行にあたって抄)



[内容・特色]

- ① 明治・大正期に日本語訳されたボードレールの作品(詩・散文詩)を集成、発表年代順に編纂。
- ② 可能な限り〈初出〉文献を採用し、新聞雑誌(一部単行書)に掲載の形を再現する復刻資料。
- ③ 収録作品名を網羅した初の翻訳史年表「ボードレール翻訳年表」(約50頁)付。



資料集 近代日本語〈形成と翻訳〉

全18巻・別巻1 川戸道昭・榎原貴教 編著

B5判・上製・総9,550頁 揃定価513,700円(本体467,000円)
[発行:大空社/ナダ出版センター(共同出版) 2014.11-2016.8刊]



近代日本語は翻訳との遭遇によってその核心部分が形成されてきた。
近代日本語が形成される「現場」がここにある。

全巻構成

第1回配本 第1巻+【文体編】(第2~4巻)	第1巻 総目次+総索引(第2~18巻統合索引)	第2巻 挑戦する文体・山田美妙集	第3巻 懐疑する文体・二葉亭四迷集	第4巻 理想の文体・嵯峨のやおむろ集	第2回配本 【文体編】(第5~8巻)	第5巻 苦渋する文体・尾崎紅葉集①	第6巻 苦渋する文体・尾崎紅葉集②	第7巻 言文一致作品集① 罪と罰(ドストエフスキー作、内田魯庵訳)	第8巻 言文一致作品集② 原作:ポロ、ホフマン、デイケンズ、アンデルセン、ゾラ他 訳者:饗庭篁村、森岡外、若松賤子、内田魯庵、森田思軒他	第3回配本 【史料編】(第9~13巻)	第9巻 近代日本語形成資料(刊本の部) 江戸期 あゆみ抄(安永2)、唐詩選解(天明4)	第10巻 近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期① 格賢勃斯英文直訳(明治3)、ピネヲ氏英文直訳(明治3)	第11巻 近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期② 国字国文改良建議書(前島密)、民権自由論(植木枝盛) 他	第12巻 近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期③ ことばの写真法(丸山平次郎)、日本新字發明(小島一騰) 他	第13巻 近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期④ 言文一致(物集高見)、言文一致(言文一致研究会) 他	第4回配本 【史料編】(第14~16巻)	第14巻 近代日本語形成資料(新聞雑誌の部) ① 計90件収録	第15巻 近代日本語形成資料(新聞雑誌の部) ② 計104件収録	第16巻 演説・記事論説集 計63件収録	第5回配本 【史料編】(第17・18巻)	第17巻 国語改良異見 計70件収録	第18巻 現代名家文章大観 計166件収録	別巻 欧米文学の翻訳と近代文章語の形成 漢文対応の日本語から欧文対応の日本語へ
------------------------	-------------------------	------------------	-------------------	--------------------	--------------------	-------------------	-------------------	--------------------------------------	--	---------------------	--	--	---	--	---	----------------------	---------------------------------	----------------------------------	----------------------	----------------------	--------------------	-----------------------	--

別巻

欧米文学の翻訳と近代文章語の形成 漢文対応の日本語から欧文対応の日本語へ

川戸道昭著

巻	書名	編	頁	ISBN	定価 (10%税込)	本体
1	総目次+総索引		240頁	978-4-86688-201-7	15,400円	14,000円
2	挑戦する文体・山田美妙集	文体編(2~8巻)	520頁	978-4-86688-202-4	28,600円	26,000円
3	懐疑する文体・二葉亭四迷集		520頁	978-4-86688-203-1	28,600円	26,000円
4	理想の文体・嵯峨のやおむろ集		520頁	978-4-86688-204-8	28,600円	26,000円
5	苦渋する文体・尾崎紅葉集①		570頁	978-4-86688-205-5	30,800円	28,000円
6	苦渋する文体・尾崎紅葉集②		500頁	978-4-86688-206-2	28,600円	26,000円
7	言文一致作品集①		630頁	978-4-86688-207-9	33,000円	30,000円
8	言文一致作品集②		430頁	978-4-86688-208-6	24,200円	22,000円
9	近代日本語形成資料(刊本の部) 江戸期	史料編(9~18巻)	630頁	978-4-86688-209-3	33,000円	30,000円
10	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期①		430頁	978-4-86688-210-9	16,500円	15,000円
11	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期②		630頁	978-4-86688-211-6	27,500円	25,000円
12	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期③		560頁	978-4-86688-212-3	28,600円	26,000円
13	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期④		410頁	978-4-86688-213-0	24,200円	22,000円
14	近代日本語形成資料(新聞雑誌の部) ①		520頁	978-4-86688-214-7	28,600円	26,000円
15	近代日本語形成資料(新聞雑誌の部) ②		530頁	978-4-86688-215-4	28,600円	26,000円
16	演説・記事論説集		550頁	978-4-86688-216-1	29,700円	27,000円
17	国語改良異見		460頁	978-4-86688-217-8	24,200円	22,000円
18	現代名家文章大観		590頁	978-4-86688-218-5	33,000円	30,000円
別巻	欧米文学の翻訳と近代文章語の形成		310頁	978-4-283-01188-5	22,000円	20,000円

【目次抄】 口絵(図録) 近代日本語形成史「カラー16頁」

【第一部】 欧文の直訳に基づく日本語の初期化と再構成(約160頁)
序章 新文章語創造運動の本質
I 『繫思談』の出現 初期翻訳文学三区分/周密文体/日本語(初期化)
II 周密文体から言文一致へ 「あひまき」と「夜と朝」/思軒の翻訳は旧文体か/「言文一致体」とは何かなる文体か
III 新文章語創造運動の本質(「能く人に通じる直訳文体」の創造 「あひまき」も「クラウド」も本質は新文体/「翻訳」はすべて「創作」-新文章語形成運動の原点

【第二部】 文末辞からたどる近代文章語の形成(約110頁)
序章 欧文との比較から見えてくるもの 文末辞は欧文動詞の口語訳に関わる問題
I 新文章語のはじまり-外国語教育における「である」文の普及
II 文学界における展開-常体文章語としての「である」文の成立 従来のアプロチへの疑問/美妙「である」文の出発点/四迷「である」文の基礎の確立/言文一致の停滞期-遭遇の呼びかけ/内田魯庵「である」文の新展開/尾崎紅葉「である」文の完成と普及
III 翻訳から創作へ-自由間接話法の発見とその展開 思軒「牢婦り」-「語り手」と「登場人物」の視点の一体化/紅葉は日本のフロアベール? 「である」文体創造の意義

【付録】 若松賤子と「小公子」-児童文学の翻訳と新文体の形成 読者・批評家の目に映じた賤子の新文体/母が兄に「言い聞かせる」物語
【史料集】 藤田茂吉・尾崎庸夫「繫思談例言」(明治18年)ほか本文中に引用された
【年表】 日本近代文体史(常体編)



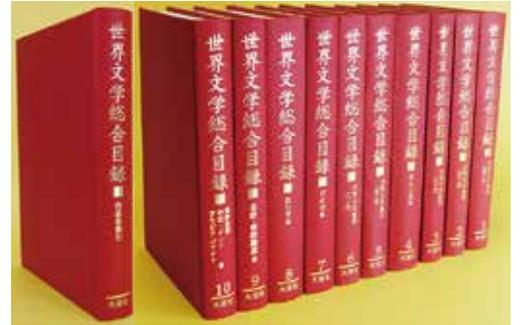
世界文学総合目録 全10巻・別巻1

川戸道昭・榊原貴教 編

B5判・上製・総約5,150頁

揃定価 290,400円 (本体 264,000円) 各巻定価 26,400円 (本体 24,000円)
[発行: 大空社 / ナダ出版センター(共同出版) 2010.12-2012.12 刊 (全6回配本)]

■10万点の外国文学翻訳作品(図書・新聞・雑誌)と原作にたどりつける、かつてない規模の最強データツール



- 1回2巻(1,2巻) [2010.12] 978-4-283-00627-0 定価 52,800円 (本体 48,000円)
 - 1. イギリス編1(あ~し) 490頁 978-4-283-00628-7
 - 2. イギリス編2(す~は) 410頁 978-4-283-00629-4
 - 2回2巻(3,4巻) [2011.5] 978-4-283-00630-0 定価 52,800円 (本体 48,000円)
 - 3. イギリス編3(ひ~わ) 310頁 978-4-283-00631-7
 - 4. アメリカ編 590頁 978-4-283-00632-4
 - 3回2巻(5,6巻) [2011.11] 978-4-283-00633-1 定価 52,800円 (本体 48,000円)
 - 5. フランス編1(あ~ふ) 440頁 978-4-283-00634-8
 - 6. フランス編2(へ~わ) 400頁 978-4-283-00635-5
 - 4回2巻(7,8巻) [2012.7] 978-4-283-00636-2 定価 52,800円 (本体 48,000円)
 - 7. ドイツ編 360頁 978-4-283-00637-9
 - 8. ロシア編 650頁 978-4-283-00638-6
 - 5回2巻(9,10巻) [2012.12] 978-4-283-00639-3 定価 52,800円 (本体 48,000円)
 - 9. 北欧・南欧諸国編 550頁 978-4-283-00640-9
 - 10. 東欧諸国・中国・インド、アラビアン・ナイト編 470頁 978-4-283-00641-6
- 別巻「世界文学総合目録作品名索引」[2013.4] 480頁 978-4-283-00643-0 定価 26,400円 (本体 24,000円)

作品名を付ける——
これも立派な“翻訳”です。

別巻 『世界文学総合目録作品名索引』

知っている作品を探せます&確認できます。
未知の作品・表現が見つかります。
翻訳・創作のヒント&研究のテーマ探しに役立ちます！

- 索引データの基本構成 邦訳作品名 原著タイトル(刊行年)〔異なる邦訳題名〕……原作者名 掲載巻・頁
- 配列 五十音順 □ 採録範囲 全10巻に収載の約10万点の翻訳作品から邦訳作品名をすべて採録
- 採録数 一三、六〇〇余点の作品名。
- 付・全10巻総目次 全10巻は国・原作者別構成。原作者の全邦訳作品を確認できます。

こんな時 使える！

- 作者名を思い出せないときに
- 原作のタイトル・刊年を確認したいときに
- 同一作品のさまざまな訳題を比較するときに
- 同名邦訳の異なる原作者を知りたいときに
- 既訳があるか確認するときに
- 翻訳したい作品の題を付けるヒントに
- 原作者の原著を一覧したいときに(総目次)

見本

た	た
誰が罪 (新散文) …………… ツルゲーネフ ⑧ 338	たぐらみ Une roue (1882) …………… モーパッサン ⑥ 161
誰が罪 Der Verbrecher aus verlorener Ehre …………… シラー ⑦ 190	たぐらみと恋 Kahle und Liebe (1784) …………… シラー ⑦ 183
高飛競争 Springryene (1845) …………… アンデルセン ⑨ 137	風 The Kite …………… モーム ③ 147
高とび選手 Springryene (1845) …………… 高飛競争、跳ぶもの、跳びつ	風 風等 (1925) …………… 魯迅 ⑩ 164
「アハハハ」のまじまじと人形 アンデルセン ⑨ 137	タゴールの神秘劇 Dakghar (1914) …………… タゴール ⑦ 250
鷹の泉 At the Hawk's Well (1917) …………… 鷹の井戸 …………… ヘイwert ① 84	多産 Polyfracy …………… ストリンダベリ ⑦ 276
鷹の島脱獄囚 Coonanet (1885) …………… 樺太脱獄記、サガレン脱走	舵手 Der Steuermann (1920) …………… カファカ ⑦ 56
記 …………… コロレンコ ⑧ 99	駄獣 A Beast of Burden …………… ゴールズワージー ① 309
宝島 Treasure Island (1833) …………… 黄金島 …………… ステイブリンソン ② 58	多数者の一人 Ouhri na mnozix (1887) …………… チェーホフ ⑧ 206
宝妻 Head Father gjor, der er altid der Ridgje (1861) アンデルセン	助かっつわ Savee (1885) …………… 解放、別れ話、命拾ひ
宝はり The Gold-Bug (1843) …………… ホー ④ 436	助けて …………… モーパッサン ⑩ 227
宝を探して 'Tren': a Treasure-Hunter (宝探し大冒険) …………… キブリング ① 251	助けてよ …………… チャベック ⑧ 29
ダガソの村長選挙 La eleccion de los alcaldes de Daguano …………… セルバンテス ⑨ 454	タズレイの災難 Trouble Down at Tustleigh (1935) ウッドハウス ① 153
多感の凱歌 Triumph der Empfindsamkeit (1777) …………… ゲーテ ⑦ 98	黄昏 Sister Carrie (1900) …………… ドライサー ④ 255
たき火 La buche (1882) …………… 独身主義、薪 …………… モーパッサン ⑥ 140	黄昏れゆく青春 Angelika (1855) …………… シュトルム ⑦ 155
たき火 To Build a Fire (1908) …………… 火を焚きつける、火を燃し …………… ロンドン ④ 581	ダタ …………… シット ⑤ 124
妥協 The Compromise of the King of the Golden Isles …………… タンハシーニ ② 88	タター人の反乱 Revolt of the Tartars (1837) …………… ド・クイシーニ ② 193
たぐらみと恋 Kahle und Liebe (1784) …………… シラー ⑦ 183	たぐらみのエペーの練習 The Only Jealousy of Euler (1919) …………… ち ② 193
	かす賢 …………… イエイwert ① 84
	戦いの前夜 Night Before Brute …………… 戦間前夜 …………… ヘミングウェイ ④ 393
	戦う操縦士 Pilote de guerre (1942) …………… サンニテグジュベリ ⑤ 76



学術資料出版
大空社出版
TEL:03-5963-4451
cigy@ozorasha.co.jp

大正期翻訳文学画像集成 雑誌編 (CD-ROM) 全6枚

川戸道昭・中林良雄・榊原貴教 編

[ナダ出版センター 2003-2004 刊] 各定価 20,900 円 (本体 19,000 円)

■ 翻訳文化の熟成期 = 明治末から大正期の日本を風靡した6作家を雑誌「誌面」で読む！

● 現代文学の母体は翻訳文学であり、大正期はその花が爛漫と開いた時代であった。そして、明治末から大正期の日本を風靡した西欧作家こそ、現代日本人の意識の基底音を培った文学者であった。この現場を解説しない限り、日本における文学創造とは何か、文化の創造とは何か、さらにその創造が何を達成したのかという問いは、羅針盤を失った研究となる。

その研究が急務であるにもかかわらず、関東大震災と第二次世界大戦の焼尽により、明治の文化遺産のみか、大正期の文化遺産もまた基礎資料の多くが失われ、今日にいたっている。とりわけ、雑誌はその盛衰が甚だしい故に散逸し、著名なものも長期にわたるために全号通して関する困難性が重なり、研究は立ち遅れている。(…) 本資料集は、単行書、新聞雑誌の原典に当たる労力を厭わぬ調査に基づき、時代を風靡していった作家を量的・質的に秤量し、選択し巻構成をなした。(刊行に際して抄)

1. メーテルリンク 100冊の雑誌から集成
2. トルストイ 200冊の雑誌から集成
3. ドストエフスキー 75冊の雑誌から集成
4. ストリンダベリ 105冊の雑誌から集成
5. モーパッサン 120冊の雑誌から集成
6. ワイルド 70冊の雑誌から集成



* 目次を兼ねた年代順メニュー
* 索引を兼ねた「訳名一覧」「訳者一覧」
* 図書・雑誌・新聞を含む詳細な作家別翻訳年表

〈動作環境〉 * Windows8/10の通常環境で動作確認済
・ブラウザはフレーム対応 HTML
・ISO-9660 フォーマット CD-ROM を読み出せる PC

図説 翻訳文学総合事典 全5巻

翻訳文学総合事典刊行会 (代表: 川戸道昭・榊原貴教) 編

B5判・上製・総約 2,300 頁 978-4-283-00743-7 揃定価 132,000 円 (本体 120,000 円)

[発行: 大空社 / ナダ出版センター (共同出版) 2009.11 刊]

1. 図録 日本の翻訳文学 (全カラー図版) / 図説日本翻訳文学史 400 頁
〈図録=全カラー〉明治・大正期に刊行された翻訳書から、時代を画した書、装幀のすぐれた書を中心に見せる。〈文学史〉は近世 (1573 年～)・明治期 (～1912 年) を見せる。
- 2・3. 原作者と作品 (1・2) 総 900 頁
日本で紹介された外国文学の時代像と作品の変遷 (原則として明治初期から昭和 20 年までを対象) を作家名五十音順に配列。内容は略歴、作家・作品像の引用、全集内容一覧、初訳の特定とその後の訳の変遷 (訳文冒頭と挿絵で紹介)、解説などからなる。収録作家約 100 名。
4. 原作者と作品 (3) / シリーズ叢書・全集総覧 500 頁
シリーズ・叢書・全集は時代の趣向を反映する。その細目を洗い出し、カバー・口絵を可能な限り紹介。明治期の訳者別翻訳年表付。
5. 日本における翻訳文学 (研究編) 460 頁
28 名の研究者が文学・美術・音楽・教育等から多彩に論じ「翻訳文学」の全貌を究明。

■ 〈類書皆無〉翻訳文学の《全貌》を明らかにした図説総合事典



児童文学翻訳作品総覧 明治大正昭和平成の 135 年翻訳目録 全8巻

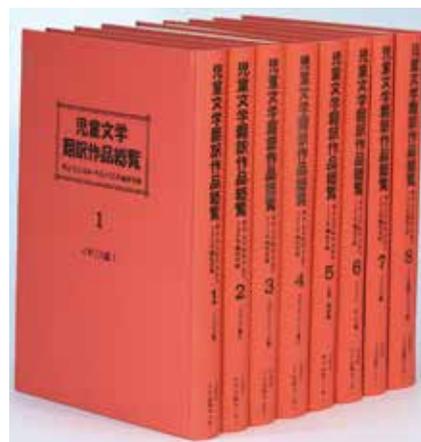
川戸道昭・榊原貴教 編

B5判・上製・総約 3,930 頁 揃定価 154,000 円 (本体 140,000 円)

[発行: 大空社 / ナダ出版センター (共同出版) 2005.6-2006.3 刊 (全 4 回配本)]

- 児童文学がいかなるイメージ・言葉で翻訳されてきたか、訳例と挿絵で鮮明にたどる総合書誌
- カラー口絵 100 余頁、第一線の研究論考、作家別翻訳総合年表、索引 (訳者別翻訳、挿絵画家、出版社・新聞雑誌別)

- 1 回 2 巻 [2005.6] 880 頁 (口絵カラー 16 頁) 4-283-00434-0 35,000 円
- 1. イギリス編 1 2. イギリス編 2
- 2 回 2 巻 [2005.9] 1060 頁 (口絵カラー 32 頁) 4-283-00435-9 35,000 円
- 3. フランス・ドイツ編 1 4. フランス・ドイツ編 2
- 3 回 2 巻 [2005.12] 950 頁 (口絵カラー 28 頁) 4-283-00436-7 35,000 円
- 5. 北欧・南欧編 6. スペイン・ロシア編
- 4 回 2 巻 [2006.3] 1040 頁 (口絵カラー 28 頁) 4-283-00437-5 35,000 円
- 7. アメリカ編 8. 千一夜物語・イソップ編



* 表示価格は (10% 税込) 定価 (本体)

明治翻訳文学全集



編集 川戸道昭・中林良雄・榊原貴教*

学術資料出版
大空社出版
TEL:03-5963-4451
cigyoo@ozorasha.co.jp

《新聞雑誌編》

《翻訳家編》

全 50 巻・別巻 2			(各巻) 定価 16,500 円 (本体 15,000 円) ・別巻を除く
巻	書名 (頁数) 刊行年	ISBN	
1	シェイクスピア集 I (360 頁) 1996.6	978-4-86688-111-9	
2	シェイクスピア集 II (380 頁) 1996.10	978-4-86688-112-6	
3	シェイクスピア集 III (410 頁) 1997.4	978-4-86688-113-3	
4	シェイクスピア集 IV (450 頁) 1997.10	978-4-86688-114-0	
5	スコット／ブロンテ集 (380 頁) 1999.12	978-4-86688-115-7	
6	ディケンズ集 (430 頁) 1996.6	978-4-86688-116-4	
7	ステイーブソン集 (400 頁) 1999.5	978-4-86688-117-1	
8	ドイル集 (380 頁) 1997.4	978-4-86688-118-8	
9	コリンズ集 (350 頁) 1998.11	978-4-86688-119-5	
10	ワイルド集 (390 頁) 1996.10	978-4-86688-120-1	
11	サッカー／キャロル集 (380 頁) 1999.5	978-4-86688-121-8	
12	キプリング集 (370 頁) 1998.5	978-4-86688-122-5	
13	十八世紀イギリス文学集 (360 頁) 2000.4	978-4-86688-123-2	
14	リットン集 (430 頁) 2000.10	978-4-86688-124-9	
15	イギリス詩集 I (390 頁) 1998.5	978-4-86688-125-6	
16	イギリス詩集 II (390 頁) 1998.11	978-4-86688-126-3	
17	アーヴィング集 (310 頁) 1997.10	978-4-86688-127-0	
18	ホーソン集 (360 頁) 1997.4	978-4-86688-128-7	
19	ポー集 (390 頁) 1996.6	978-4-86688-129-4	
20	マーク・トウェイン集 (370 頁) 1996.10	978-4-86688-130-0	
21	バーネット集 (320 頁) 2000.10	978-4-86688-131-7	
22	アメリカ詩集 (320 頁) 1999.12	978-4-86688-132-4	
23	モリエール集 (380 頁) 2000.4	978-4-86688-133-1	
24	ユゴー集 I (450 頁) 1996.10	978-4-86688-134-8	
25	ユゴー集 II (440 頁) 1998.5	978-4-86688-135-5	
26	デュマ父子集 (400 頁) 1997.4	978-4-86688-136-2	
27	ヴェルス集 I (380 頁) 1996.6	978-4-86688-137-9	
28	ヴェルス集 II (410 頁) 1997.10	978-4-86688-138-6	
29	ドーデ集 (370 頁) 1999.5	978-4-86688-139-3	
30	ゾラ集 (400 頁) 1998.11	978-4-86688-140-9	
31	モーパッサン集 I (390 頁) 1997.10	978-4-86688-141-6	
32	モーパッサン集 II (400 頁) 1999.12	978-4-86688-142-3	
33	フランス文学集 (370 頁) 2000.10	978-4-86688-143-0	
34	ゲーテ／ハイネ集 (430 頁) 1998.11	978-4-86688-144-7	
35	シラー集 (350 頁) 1999.12	978-4-86688-145-4	
36	プーシキン／レー尔蒙トフ集(360 頁) 1999.12	978-4-86688-146-1	
37	ゴーゴリ集 (380 頁) 2000.4	978-4-86688-147-8	
38	トルストイ集 I (360 頁) 1997.10	978-4-86688-148-5	
39	トルストイ集 II (380 頁) 1999.5	978-4-86688-149-2	
40	ツルゲーネフ集 I (390 頁) 1996.10	978-4-86688-150-8	
41	ツルゲーネフ集 II (360 頁) 1997.4	978-4-86688-151-5	
42	チャーホフ集 I (340 頁) 1998.11	978-4-86688-152-2	
43	チャーホフ集 II (350 頁) 2000.4	978-4-86688-153-9	
44	ゴーリキー集 (440 頁) 2000.10	978-4-86688-154-6	
45	ドストエフスキー集 (370 頁) 1998.5	978-4-86688-155-3	
46	アンデルセン集 (340 頁) 1996.6	978-4-86688-156-0	
47	イブセン集 (470 頁) 1998.5	978-4-86688-157-7	
48	ストリンドベリ集 (310 頁) 2000.10	978-4-86688-158-4	
49	メーテルリンク集 (380 頁) 1999.5	978-4-86688-159-1	
50	イタリア文学集 (440 頁) 2000.4	978-4-86688-160-7	
別巻1	明治期翻訳文学総合年表 (360 頁) 2001.5		別巻・2 巻揃 (分売不可) 4-7568-0319-9
別巻2	総目次・総索引 (290 頁) 2001.5		揃定価 38,500 円 (本体 35,000 円)

全 20 巻			(各巻) 定価 16,500 円 (本体 15,000 円)
巻	書名 (頁数) 刊行年	ISBN	
1	三遊亭円朝集 (310 頁) 2002.6	978-4-86688-161-4	
2	福地桜痴・益田克徳集 (470 頁) 2003.7	978-4-86688-162-1	
3	井上勤集 (460 頁) 2002.6	978-4-86688-163-8	
4	坪内逍遙集 (350 頁) 2002.1	978-4-86688-164-5	
5	森田思軒集 I (370 頁) 2002.1	978-4-86688-165-2	
6	森田思軒集 II (370 頁) 2003.7	978-4-86688-166-9	
7	黒岩涙香集 (380 頁) 2003.3	978-4-86688-167-6	
8	森鷗外集 I (380 頁) 2002.1	978-4-86688-168-3	
9	森鷗外集 II (390 頁) 2002.6	978-4-86688-169-0	
10	二葉亭四迷集 (360 頁) 2002.1	978-4-86688-170-6	
11	原抱一庵集 (330 頁) 2003.3	978-4-86688-171-3	
12	尾崎紅葉・小栗風葉集 (320 頁) 2002.6	978-4-86688-172-0	
13	内田魯庵・嵯峨の屋お室集(350 頁) 2002.6	978-4-86688-173-7	
14	馬場孤蝶集 (400 頁) 2003.3	978-4-86688-174-4	
15	松居松葉集 (400 頁) 2003.3	978-4-86688-175-1	
16	田山花袋・国木田独歩集(300 頁) 2003.7	978-4-86688-176-8	
17	上田敏集 (340 頁) 2003.7	978-4-86688-177-5	
18	森嶋峰・佐藤紅緑集 (380 頁) 2003.7	978-4-86688-178-2	
19	草野柴二・押川春浪集 (360 頁) 2002.1	978-4-86688-179-9	
20	小山内薫集 (320 頁) 2003.3	978-4-86688-180-5	

全 20 巻 総約 7,350 頁
揃定価 330,000 円 (本体 300,000 円)

《新聞雑誌編》 *《新聞雑誌編》編集協力

制作 ナダ出版センター
発行 大空社 1996-2001

《翻訳家編》

発行 大空社 / ナダ出版センター(共同出版)
2002-2003

【体裁】 B5 判・上製・クロス装



■ 全収録作品掲載
(原作者別に作品を探せます。)
* 冊子カタログ進呈、ご請求下さい。

全 50 巻・別巻 2 総約 19,800 頁
揃定価 863,500 円 (本体 785,000 円)

* 表示価格は(10%税込)定価(本体)

● 詳細カタログ



ナダ出版センター

(発行・編集・企画) 商品一覧

学術資料出版
大空社出版
 TEL:03-5963-4451
 eigyo@ozorasha.co.jp



明治期グリム童話翻訳集成

川戸道昭・榊原貴教 編
 (企画：ナダ出版センター、発行：アイアールディー企画)
 B5判・上製

全5巻揃 4-901061-05-4 [1999.9刊] 定価 96,800円 (本体 88,000円)
 グリム童話は明治期の日本にどのように入ってきたのか。明治期グリム童話翻訳を新聞雑誌等から復刻集成。明治期に訳された約300点から167点を集録。明治期全翻訳作品の「KHM分類別翻訳一覧表」「翻訳文学年表」を付す。

明治期シャーロック・ホームズ翻訳集成

川戸道昭・新井清司・榊原貴教 編
 (企画：ナダ出版センター、発行：アイアールディー企画)
 B5判・上製

全3巻揃 4-901061-06-2 [2001.1刊] 定価 55,000円 (本体 50,000円)
 ホームズは明治期の日本にどのように入ってきたのか。長年ホームズ書誌を手がけてきた編者が協力し、明治期シャーロック・ホームズの受容史を書誌年表と復刻で実現。探偵小説史のみならず、探偵小説が登場する19世紀イギリスを日本人が明治期にどのように受容していったのかを知る上に恰好の材料を提供。

日本におけるグリム童話翻訳書誌

(翻訳研究・書誌シリーズ1)
 川戸道昭・野口芳子・榊原貴教 編著
 A5判・上製・254頁
 4-931522-07-6 [ナダ出版センター 2000.7刊] 定価 3,850円 (本体 3,500円)
 一つの童話が他の社会に伝播されるとき様々な変移をもたらすが、グリムのメルヘンはその典型である。[研究編] 川戸「グリム童話の発見 日本における近代児童文学の出発点」、野口「改変された日本の「白雪姫」 明治から現代まで」、中山淳子「「狼と七匹の子山羊」の謎」、虎頭恵美子「日本におけるグリム翻訳書誌 明治期のグリム童話の本邦初訳について」/[年表編] グリム童話翻訳年表 (明治編、大正以降現代まで)、グリム童話 KHM 分類目録

日本におけるシャーロック・ホームズ

(翻訳研究・書誌シリーズ2)
 川戸道昭・新井清司・榊原貴教 編著
 A5判・上製・280頁
 4-931522-09-2 [ナダ出版センター 2001.9刊] 定価 6,050円 (本体 5,500円)
 [研究編] 川戸「日本におけるシャーロック・ホームズ その「古典」化までの道すじ」、日暮雅通「日本だけが特殊なのか? ホームズ物語の翻訳の変遷とその特殊性」、植田弘隆「ホームズ児童書史散歩」、新井「日本における Doyle、ホームズ移入史余談」/[年表・索引編] シャーロック・ホームズ翻訳文学年表 (川戸・新井・中原英一・榊原編)、シャーロック・ホームズ作品別索引

黒岩涙香の研究と書誌 黒岩涙香著訳書総覧

(翻訳研究・書誌シリーズ 別巻1)
 伊藤秀雄・榊原貴教 編著
 A5判・上製・244頁
 4-7727-0354-3 [ナダ出版センター 2001.6刊] 定価 6,050円 (本体 5,500円)
 「萬朝報」を舞台にして翻案された数々の涙香の作品はノベルだったのか、ストーリーだったのか。[研究編] 高松敏男「若き日の涙香、最初の活躍 『大阪日報』への投稿と『政治月報』の編纂、川戸「ミステリー作家黒岩涙香の誕生」、小森健太郎「黒岩涙香の訳した原典の探索」/[書誌・解題編] 伊藤「黒岩涙香著訳書総覧 (日本たむす時代、絵入自由新聞時代、都新聞時代、萬朝報時代)」、伊藤・榊原「黒岩涙香刊行図書書誌」、伊藤「黒岩涙香年譜」/索引

夏目漱石の研究と書誌

(翻訳研究・書誌シリーズ 別巻2)
 小田切靖明・榊原鳴海堂 著
 A5判・上製・318頁
 4-931522-10-6 [ナダ出版センター 2002.7刊] 定価 6,600円 (本体 6,000円)
 蒐集家と古書肆による詳細書誌 (文献の要所・視点を引用) と研究。[内容] 漱石研究の周辺 (榊原) / 「漱石本」の研究と書誌 / 「漱石研究文献」詳細書誌 / 漱石擬態本詳細書誌 (『吾輩は猫である』パロディー 100点) / 研究文献著者索引

日本におけるサミュエル・ジョンソンおよびジェイムズ・ボズウェル文献目録 (1871-2005)

藤井哲 編著
 B5判・上製・310頁
 4-931522-11-4 [ナダ出版センター 2006.6刊] 定価 7,700円 (本体 7,000円)
 18世紀の文人 S. Johnson (1709-84) と日記作家 J. Boswell (1740-95) が、1871・明治4年から135年間に日本で受容・研究された文献情報を年表形式にまとめ、日本の Johnson 学構築のための基礎材料とする。

ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究

柳富子 編著
 A5判・上製・652頁
 4-931522-08-4 [ナダ出版センター 2001.2刊] 定価 7,700円 (本体 7,000円)
 早稲田大学比較文学研究室の半世紀に及ぶロシア文化研究の成果を書下ろしを含む36名の研究論文によって集成。第1部：ロシア文化のなかのヨーロッパ、第2部：日本とロシア 交流のなかで。

ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究 第2集

柳富子 編著
 A5判・上製・758頁
 4-931522-12-2 [ナダ出版センター 2006.10刊] 定価 8,800円 (本体 8,000円)
 ロシア文化研究第一線の研究者46名による比較文学研究の最前線。

〈ナダ書房〉マイクロフィルム版史料

【総販売元】
 学術資料出版
大空社出版

※各セットに収録資料の「目録・解説」(冊子)が付いています。冊子のみでもお求めできます。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 西洋文学移入史料集成 | 9 明治前期地方自治制刊行物集成 |
| 2 明治期翻訳文学書全集 | 10 月刊雑誌『自治機関』 |
| 3 近代日本黎明期文学書集成 | 11 近代日本軍隊関係雑誌集成〈陸軍の部〉 |
| 4 明治初期文学雑誌集成 | 12 近代日本軍隊関係雑誌集成〈海軍の部〉 |
| 5 明治初期辞書集成 字類・字解・字引類 | 13 明治期産業翻訳書集成 |
| 6 英学資料集成 国民英学会と中外英字新聞 | 14 明治期教育関係雑誌集成 |
| 7 明治期学術・言論雑誌集成 | 15 児童教育史資料集成 |
| 8 明治期社会科学翻訳書集成 | 16 『工藝』『月刊民藝』 |